

《誕生》

1962年10月、午後9時58分〇〇秒——

おぎゃあ〜！！

父は若い頃から日記をつけていて、それを、たまたま、ちょっとだけ見てしまったのですが、

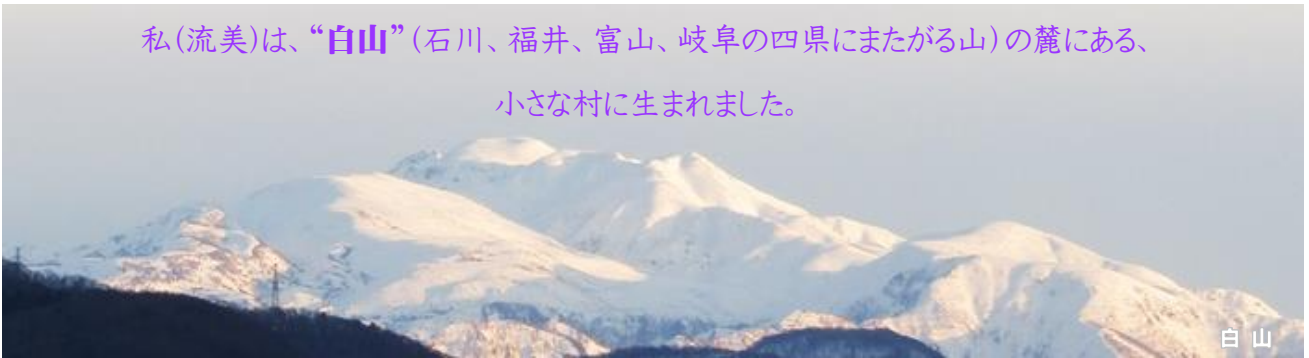
私がこの世に生まれ出た時間を、何分何秒まで書いてありました。

「日記を後で読み返すとナーバスになるので、感情は記さない。」と言っていたのは、本当でした。

「心配だ…」とか、「嬉しい！」とか、(期待するような言葉は)なんも書いてありません。

でも私は、**歓迎され、大切に育てられた！**その自信があります。^^ (笑)

私(流美)は、“**白山**”(石川、福井、富山、岐阜の四県にまたがる山)の麓にある、
小さな村に生まれました。



「白山」は、一年の大部分が雪に覆われているところから付けられた名前と言われ、
白山で育まれる、清らかで豊かな水は、石川県の手取川、福井県の九頭竜川、富山県の庄川、
岐阜県の長良川の源流となり、その麓の人々の暮らしを支えてきました。
山そのものが、大自然という大いなる恵みであり、人智を超えた“神の姿”そのものであるとされ、
人々は、生活の一部として、白山に感謝と祈りをささげてきたのだと思います。

私の名前である、“**流美**”ですが、

小学校で自分の名前の由来を調べる、という課題が出されたので聞いてみると、

「山の川の流れのように、決して淀むことなく、生き生きと、美しく流れていきますように——」との
意味で、両親のワクワクから生まれた名前であることがわかりました。

そこには、決して終わることのない宇宙の姿があり、

“**永遠の宇宙**”=“**美(究極のクリスタル)の世界**”が見えるような気がします。^^

白山の、美しい川の流れのように——、白山、そして父と母の思いが、私の中に流れています。

小学6年生まで、手取川を挟んで東西に分れた、小さな集落の東側に住んでいました。

豪雪地帯なので、雪の思い出はたくさんあります。

私が生まれた冬、

すぐ隣の家が火事にみまわれ、全焼してしまったのですが、我が家は無事でした。

理由は、その年が“三八(昭和38年)豪雪”と呼ばれる、稀に見る大雪となった年であった為で、家全体がすっぽりと雪に覆われていて、火も手出しができなかったようです。

白山の美しい雪(白龍さん)が、私達を守ってくれたのだと思います。^^

自宅は木造の一般的な造りでしたが、隙間から雪が吹き込むような日もあったようで、母が、まだ赤ちゃんだった私の様子を見に、二階の部屋に行くと、頭上にグンと伸ばした小さな両腕に、雪が降り積もったまま、スヤスヤと眠っていて、おかしかった…、と話してくれた事があります。

風邪をひかないようにと、日頃から心配性な母なので、

その時の光景には、瞬間、ドキッ！？としたに違いありません。(まあ、たいへん?!)^

赤ちゃんは、まわりが思う以上に、遅いのではないのでしょうか？

生まれたまんまの、美しい“魂”が光輝き、大勢の目に見えない存在達に守られている…、

そんな気がします。^^

私の通った小(中)学校は、当時流行ったとされる、全体が丸い形をした円筒校舎でした。

その頃は、すごく大きく見えた気がするのですが、同学年の子供はたったの14人、

小中併せても100人くらい？なので、さほど大きな建物ではなかったはず…、

大人になった今、もう一度その学校を見る事が出来たなら、その小ささに驚くかもしれません？！

角がないので、四方八方から光が降り注ぐ、“太陽のような学校”だったのでは？とも。^^

故郷がなくなってしまった淋しさを、時折そんな風にして思い出します。

丸い筒のような校舎の中心には、1階から4階をつなぐ螺旋階段が通っていて、

1階には職員室や音楽室、給食室等があり、

2階と3階は各教室、4階は講堂(集会場)兼体育館となっていました。

階段の周りをグルリと廊下が巡り、その廊下側に黒板がある、扇形をした教室でした。

父はその頃、中学の音楽教員だったので、楽譜を片手に、よく鼻歌を歌いながら螺旋階段を、

昇り降りしていた姿が思い出され、のどかな時の流れが、父と共に蘇ってくるようです。^^

小学校のすぐ脇に手取川があり、教室から堤防へと、非常階段がつながっていました。
吹きさらしの環境で、風が吹くと、窓ガラスが一斉にガタガタと、大きな音を立てた記憶があり、
先生の声が聞こえていたのだろうか？ 集中力の高い子供達には、何の問題もなかったのか？

今頃疑問ですが、学校も自然の一部としてそこにあった——、そんな気がします。^^

雪が溶け、あたたかい季節になると、手取川は子供たちの遊び場となりました。
自然がそのままあるだけなので、ゲームや娯楽施設に比べると、ずいぶん退屈な気がしますが…

なんだか？！楽しかった～～！！

大きな岩を目標にして、小石を次々と飛び超えていく、スリルや爽快感！

川べりの草を編んで、思い思いの冠を作りあげていく、ワクワク感！

小さな赤いグミの実を、一個一個つまんで口に入れる、ささやかな喜び、甘美…

今思うと、そこは子供達だけの場ではなく、大いなる自然と一体となった、壮大な時空だったのでは？

大自然が放つ様々なエネルギーと無意識に共鳴し、∞に膨らんでいく喜び、ワクワク！

そこに在る、あらゆるすべてと共に、美しい“生命のシンフォニー”を奏でていたのかもしれない。^^

手取川と言えば、こわい?!思い出があります。

私は、父に、川の中へと放り投げられそうになったことがあるのです…。

毎日、外で遊ぶことが、そんなにも楽しかったのでしょうか？

決められていた夕食の時間になっても、家に帰らない日が長く続いていたようです。。

(注意されていた気もしますが…、本人は、家族の心配？怒り？に全く気付いていませんでした(^^))

どうとう父が怒って、私を抱え上げ、そのまま手取川へと運んでいき、水の中に放り投げるふりをして、

「ちゃんと、みんなで約束した時間を守るか！」と言ったのでした——。

普段は何も言わないので、一旦怒ると超コワイ?! (昔のお父さんの典型? ^^)

規律を守り、行動を控えめにし、なるべく人に迷惑をかけないようにと生きてきた(本当か?) 私としては、

そんな時代もあったのかと、むしろ誇らしい気さえする、自由奔放、無邪気な子供時代でした。^^

故郷の真ん中であつた円筒校舎。

村という“マル”の中の“テン”でもあつた、我が学び舎。

白山の豊かな自然の懷に抱かれて育つた私、その大切な故郷が、水の下に沈む日が来ようとは——。

小学6年の終わり、いよいよ学校ともお別れという時、全校生徒の前で、お別れの挨拶をすることになりました。その時の作文のタイトルが、「ありがとう！まるこい学校」です。

まるこいは、「ま～るい」の意味で、ここに沢山の思い出と、感謝の気持ちが、
ギュッと詰め込まれている感じがします。

学校での私の所業にはノータッチだった父も、この時は参戦？し、二人で決めたタイトルでした！
父にとっても、思い出がいっぱい詰まった、大切な学校だったに違いありません。^^

私達の村が、ダム建設予定地となり、その準備の為に大人たちは何度も集まり、相談し、
慌ただしい日々を過ごしていました。。

まだ子供だった私は、事の重大性に気付くことなく、新たな生活の場へと移行しました。
ちょうど中学入学というタイミングだったので緊張感がまさり、感傷的にならずにすんだのかもしれませんが。
新しい住所は、“**白山の神**”を祀る加賀一の宮、“**白山比咩神社**”がある(旧)鶴来町でした。
木の香りがする新しい家は、母のお気に入り(新居に住む事が励みになっていたのでは？)でしたが、
なんとなく？気持ちが重暗く、ぐっすりと眠れない感じで、快適とは言えませんでした。

その時から、私の住む世界が大きく、変わってしまったような…。
闇の迷路のはじまり——、という感じでもありました。

中学時代は吹奏楽部に入り、部活に明け暮れていました。
それなりに充実した日々？でしたが、心から音楽を楽しめていなかった気がして、残念でもあります。
吹奏楽はチームプレーであり、皆の心が一つになった時、最高の響きが生まれる…。
ワネルスの貴重な体験の場だったのかもしれませんが。^^

インターネットが普及し、教科書には載っていない沢山の情報を、得る事ができる時代となりました。
学校では、世界最古の文明は、紀元前5000年頃のメソポタミア文明(シュメール)であるとか、
日本の縄文時代は、とても原始的な生活をしていた、と教わった記憶がありますが、
それは全く違うのでは？と思うようになりました。

地球には、メソポタミア文明よりもっと以前に、“レムリア”や“アトランティス”と呼ばれる、
とても高度な文明があったとされ、真の縄文時代とは、レムリアから受け継いだ、
高い精神性(霊性)と創造力によって、争い事のない、調和と豊かさに満ちた時代だった…

と言われるのが、真実なのではないでしょうか？

どっちが本当なのか？今に生きる私にはわかりませんが、もし、こんな風に教科書に記されていたら、現代社会は、もっと豊かで、優しい世界になっていたのでは…？と、想像してしまいます。

子供達に必要と感ずるのは、ワクワク、夢や希望に溢れた知識や体験であり、自分達の手で明るい未来を創造していくための手掛かり、力となるものではないでしょうか？

レムリアの高い霊性の上に、高度な物質文明(科学)を打ち立てようとしたのが、アトランティスでしたが、いつしか物質の進化のみに偏り、心(霊性)が見失われてしまった為、バランスを崩し、共に滅びてしまった——、水没してしまった、とされます。

(私の故郷のように…)

私が生まれてすぐ、母が大病を患い、ある神道系宗教の方に助けをいただいたことから、私も母と一緒に、信者の一人となっていたのです。

母に連れられるまま、近くの支部で開催される行事に参加したり、遠方の聖地へも出かけました。

小さな私は、母と一緒にいる事や、電車の旅が、ただ楽しかったのだと思います。^^

《新しい地での始まり》

過去の事は、あまり思い出したくない…、というのが私の正直な気持ちです。

故郷がダムの底に沈む事となり、新しい土地に移ってからは(思春期のせいもあった？)

私の回りにはいつも暗雲がとりまいているような…、身も心も重だるい日々でした。

もし、もう一度あの頃に戻り、同じルートをとらなければならないという、罰ゲームがあったとしたら、今頃絶対ここにはいない(生存していない?)と思います(笑)。

全てがそうであったわけではありませんが、学校の授業は、暗記地獄?!とっていました。あまり興味のない事を、とにかく頭に詰め込み、テストでなるべく良い点を取る事が目標といった感じで、

私は暗記が苦手なので、試験が近づいてくるともう大変、睡魔との戦いでした。
中学初めの頃は、田舎でたくましく育ったお陰か？「5分たったら起きろ！」と決めて仮眠すると、
絶対5分後に起きられたのですが、だんだんその気力もなくなって…、
どうしても行かなければならないので行く…、学校とは私にとって、そんな場所でした。
仕方なく、眠気をこらえてぼ～っと椅子に座っていた長い時間を、他のことに使うことが出来たら…、
どんなに充実した、楽しい学生時代を過ごすことが出来たでしょう！

小さい頃の私は、「お願いだから、ちょっと黙ってて」と、母に言われてしまうほど、
おしゃべりだったみたいですが、いつの間にか口数が少なくなり、
みんなの列の、一步後ろを歩く子供になりました…。
幸い、いじめにあったとか、仲間外れにされたという経験はなく、ただその方が、気持ちが楽だったのです。
そんな中学時代、唯一興味を覚えたのが、『み教え』（教祖の教えが書かれた書物）でした。
まったく初めて知ることのようであり、ずっと前から知っていたことでもあるような…、
とにかくワクワクし、何度も繰り返し読みました。^^

そこに書かれていたのは、
人の本当の姿は、目に見えない霊や魂と呼ばれるものであり、肉体はその器(いれもの)であること。
神には、人類が進化する為の経綸(計画)があり、これまでは物質(肉体)の進化を中心とした、
夜(月)の時代であったが、これからは、心(霊、魂)が中心となった、昼(日)の時代に変わる等です。
(ある程度、物質文化が進歩しなければ、人の心にゆとりが生まれず、霊性も育たないという理由からの事。)

私は、不思議なものが見えたり聞こえたり、という経験もなかったのに、
なんとなく“神”と呼ばれる存在はある気がするけれど、幽霊はこわいし、いて欲しくない…という感じで、
「それは本当だろうか？」が、その頃の私の、生きるテーマとなっていきました。

母は、自身が命を救われた経験から、神の存在を信じていましたが、
父は、神や死後の世界など存在しないと言い、こちらが何を言っても、理路整然と返してきます。

父が納得するような事を言えるようになりたい、そんな気持ちもありました。
今から思えば、とても大切なもの＝“神なる光”が、私の中心に灯されていたのですが、
学生、そして社会人と、一般社会のルールにうまく乗ることが出来なくて、挫折と絶望しかない、
真っ暗闇の中に、生きていたような気がします。

(黙って私を信じてくれている両親には、申し訳ない気持ちで一杯でした。)

高校を卒業してどれくらい経った頃だったでしょう？

3カ月程の間、聖地奉仕と言われるものに参加し、泊まり込みで、教団聖地の清掃作業や、研修にこられる方の、お世話係りなどをさせていただきました。

苦しい日常からの逃避でもあったのでしょうか？親元を離れて過ごす、はじめての経験です。
(そうそう、家には「旅行に行ってくる。」とだけ書いて、しばらく京都に潜伏していたこともありました。笑)

この奉仕期間中、印象に残る出来事がありました。

“面会の間”と呼ばれる、教祖の写真が飾られた部屋があり、そこで静かに座っていたのですが、
何故か、涙が溢れ出て、止まらなくなってしまいました…？

悲しいとか、嬉しいとかいう感情がまったく湧かないので、自分でも意味がわかりません。

仕方なく、席をはずさせてもらったのですが、オイオイと泣き声まで出てきて、

自分は どうしてしまったのだろう？と、不思議で仕方ありませんでした。

今から思うと、そこは教祖との面会の間——、目に見えない真実へと私を導いてくれた教祖と

『異次元の間』で、出会っていたのかもしれませんが。^^

ある日の休憩時間中、雑誌にあった一枚の写真に目がとまりました。

私にとっては、心が氷つきそうなほどショッキングな光景で、苦しくなってしまう、神殿へと行き、祈りました。

その時、「決して、こんなはずじゃなかったんだ…」という、私の何倍もの悲壮感を帯びた声が聞こえ…

た気がして、一瞬、誰？何？となりましたが、その理由もわからないままでした。

確かにその声は聞こえていたのだと思います、自身の内側から——。

声や物音は、自分の外側から聞こえてくるのが正解？で、内なる声(内側から聞こえてくるもの)は、
まったくあてにならない自身の考えや、妄想でしかないのだと、私は、ず～っと思っていました。

奉仕期間が終了し、自宅に帰ってからも、不思議な事がありました。

それまでは、自分の事など考えている余裕もなく、心の変化にも気づいていませんでしたが、
何故だか、わけもなく、人が愛おしくて仕方がない——、何かしてあげたくて、じっとしてられない…、

自身の内側から優しさが溢れて、止まらないのです。

自分が自分でなくなってしまったようで、これが本当の自分だったような気もして、変な感じです。

その場に、たまたま鏡が置いてあり、写った自身の顔を見て、えっ？

“龍”がいる?!?!?

龍など、絵やアニメでしか見たことがありませんが、何故か、はっきりとそうわかりました！？

その時は、畏ろしさのあまり、瞬間で目を背けてしまいました…。

あまりにも威厳に満ち満ちた姿であり、見てはいけないものを見てしまった気がしたのです。

龍とは、“愛”そのものだった。。

そして、私の中にも、その龍のエネルギーが流れているのだと——。

想像上の存在でしかなかった龍が、私自身でもあり、私の一部分であることを体感しました。

《神とは？》

物心ついた時から、神道系宗教の信者として育ったので、“神”は生活の一部であり、

時に、疑問の壁？にぶち当たり、行き場がなくなってしまう事もありましたが、

決して神から離れる事がなかった理由は、教祖の人柄に惹かれていたからなのだと思います。

苦しんでいる人を見ると、どうしても放っておけない…、

人の不機嫌な姿をみるのが、何よりも苦手だった…と、み教えには記されています。

また、楽しみながら魂を向上させる最善の方法は、美に触れる事であるとし、

当時主流となっていた、美術品を個人的に所有し、自らの傍において愛でるのではなく、

多くの人に公開し、共に楽しんでもらうための美術館を造ったと言われます。

世界には、様々な宗教がありますが、開祖の思いはたった一つ“愛”(真心)だと思います。^^

私は見えない世界の事をもっと知りたくて、宗教やスピリチュアルに関する、教団以外の本を

読むようになり、その中で惹かれるものがあると、参加してみたくなりました。

(神道ではなく)ある天界系？の本に感銘し、その集会のようなものに参加を決めたのですが、

前日に入院するという事態が起こり、行けなくなった事があります。

今思えば、自身が行くべきところではなかったもので、ストップがかかった？！のかもかもしれません。^^

また、ある神道系の教団の本に感動し、しばらくの間、活動に参加したことがあります(母には内緒で)。

その教団に惹かれた理由は、“白山”と、白山比咩神社御祭神である“菊理姫”の事を、

とても大切にしていたからで、その時から、白山とは？菊理姫とは？の探求がはじまっていきました。

この活動に参加を決めた時、私は自宅の神前で、何度も何度もお詫びをしました。

これまでお世話になった神をないがしろにし、裏切り行為をしているような気がしたからです…。けれど、神からはなんの返答もなく、そして、私の神への探求心も、止む事はありませんでした。

私が生まれてすぐ入ることになった教団と、新しい教団の間に、大きな違いを感じました。

それまでの神は、聖地と呼ばれる神殿の奥に鎮座しているもの…、とのイメージで、決められた日の、決められた時間に出向いて行って、日頃の感謝と祈りを捧げる場でした。

(自身が生まれた時、教祖はすでに亡くなっていました。)

新しく出会った神は、私達のすぐ傍にあり、共に祈り、共に創造していく存在で、

時間や場所などは、あまり意味を持たない、生きて動く神?!でした。

(教祖が御存命で、超人的な活動をされていました。)

そうなると予定が立てづらく、家族や勤務先への言い訳に、冷や汗をかくことも度々で、

時間が大幅に延長されることも多くなり、ある時は軽装のまま出かけてしまい、

夜の冷え込みで凍死寸前?!となった事もあります。(今となっては笑い話です)

神とは、本来そういったものなのかもしれない…。こちらの都合で動くものではないのだ…。

確かにそう感じて、出来る限りの努力をし、白山登山が目標となった時期には、何度かトライしました。

でも、だんだん、なんだか違う気がしてきました。。

振り回されて、自分自身(芯)が、なくなってしまっているのでは——?と。

その後、何故かわけのわからない手続きミスが起こったり、

神以外の所(人間模様等)に、いろいろと矛盾を感じたりして、教団から足が遠のいていきました。

このように振りかえってみると、自身は、“神”なるものを追いかけているつもりでしたが、

神の如き“人”を見ていた、という事なのかもしれません。

ではありますが、私が白山比咩神社に通うようになったのも、菊理姫に関心を抱くようになったのも、

これらの宗教に御縁があったからで、人生というレースの重要な通過ポイントでもあったのだと、

感謝の念に堪えません。

自身とは全くかけ離れた、遥かなる高みにある存在と思い込んでいた神を、

より身近に感じる事が出来るようになっていきました。

が、この時はまだ、神とは、自身の外側にある、自身とは別の、偉大なる何者か?でした。

私が白山さん(白山比咩神社)で祈る言葉は、いつも決まっていました。

「いつか、お役に立つ人となりますように——。」

誰もが、生きる喜びに溢れた、尊敬と信頼で成り立つ、素晴らしい世の中をつくりたい…

との思いがありました。その為、何をどうしていけばいいのか？全くわからず、

そう言うしかなかったのです。

普通の生活を送る中で、自分に出来る事を、コツコツと積み重ねていきました。

「何があっても、絶対に人のせいにしない事」、「正しくあることより、愛である事を選ぶ」等、目に見えない世界の事を学ばなければ、知る事ができなかつた、たくさんの真実があるのだと思います。

神を、現実逃避の言い訳の道具にしない！ そう決めていました。

《『天の岩戸開き』とアセンション》

ある日、『天の岩戸開き』(Ai 著)という、一冊の本に出会いました。

“天の岩戸開き”は、有名な日本神話の一説であり、神なるものに関心があった私には、

まるで、何かのスイッチ？のような…、

人生を大きく舵取りする、とても重要な“キーワード”であったのだと思います。

2010年もあとわずかという年の暮れ、その本を手にし、感動の涙とともに、一気に読み終えました。

それは私にとって、ただの“本”ではなく、長い間探し求めていた世界の真実——、この世に生まれて来た意味が、はじめて明かされることになる、“啓示の場”とも言えるものでした。

本とは、作者の思いや知識、創造力を文字にした、単なる“物”、としか見ておらず、

これまでも素晴らしい本との出会いはありましたが、なんというか…、

『天の岩戸開き』ほどの厚み？(つながりを持つ時空の幅)を感じるものはなく、この本の奥には、大きな世界が広がっていて、たくさんの何ものか？がそこにいるような気がして、

思わず本を持ち上げて、後ろから覗き込んでいました。

後から思えば、幼稚園児か？と思うような行動ですが、実際にそうってしまったのです。

が、誰もいません……、が、いました！（笑）

誰がいたのか？ちゃんとそこに記されていたのですが、
その頃の私は、全く気付かないまま、ただ深い至福に包まれていました——。^^

2011年が明けると同時に、本の著者であるAi先生が主催する、
NMCAA（ニュー・マクロ・コスモス・アセンション・アカデミー）に、参加を申し込みました。

（その頃の私の性格上、考えられない素早さでした。）

どんな宗教組織や団体とも関わりのないアカデミーなので、
他の組織に参加している方はご遠慮下さいとあり…、一瞬どうしよう？となりましたが、
その頃は、一時期がんばっていた宗教も、生まれた時から信者だった宗教も、
信者であるなしは関係なく、よき学びとして、乗り越えた感があったので、参加を表明しました。

これまでのすべてが、この日の為に必要だったのだと思います。

重大なことを見落としていました…、

「天の岩戸開き」だから、神道に関わる何らかの活動をするもの、
と頭から思い込んでいたのですが、自身が参加申し込みしたのは、『NMCAA』でした？！

横文字苦手の私(^;、随分後になって気付いたのですが、
そこは、“NMC”＝“新しい宇宙”であり、“アセンション・アカデミー”＝“アセンションの学校”です？！

“アセンション”なんて、これまで全く聞いた事がなかった言葉ですし、
“アカデミー”とは、なんと、あの、苦手だった“学校”の事ではありませんか？！

え～っ?!?!?!?

最初からわかっていたら、参加していなかった…（笑）

ではなく、本当に入りたかった学校に、いつの間にか入学していたのでした！^^

携帯電話やパソコンをみんなが持つようになり、頭空っぽ＝知識ゼロの私にとっては、
知りたいことを、いつでもどこでも知ることが出来る、ものすごく有難い、便利な時代となりました。^^

アカデミーも、自宅にいながらネットを通してつながり、学ぶことができ、
ネットは、知識や情報交換の場から、さらには、エネルギー（波動）交流の場へと進化しました。

『天の岩戸開き』の著者であり、アカデミー長であるAi先生公式セミナーに

初めて参加することが決まり、その出発のご挨拶をするために、白山比咩神社へ出かけました。

境内摂社である荒御前神社(荒御前大神…神功皇后が朝鮮出兵の際に守護した神)にて
新たな始まりへ向けての決意と感謝を述べると、突然左手上方に閃光が走り、雷(神成)?!

その凄まじさに、ビックリ仰天?!

はじめてリアルに体験した不思議現象?に、しばらく固まっていました。。

これも、ずいぶん後になって思うのですが、

荒御前神社の左手には、白山頂上奥宮遙拝所があり、その上方とは、まさに白山そのもの?!

懐かしい故郷“白山”から贈られた、新たな旅立ちへむけてのエール?! だったのではと。^^

その時は、突然の出来事、偶然の出会い…、としか思えないようなことも、

後から全体を見渡してみると、一つのストーリーのようになっていて、ある目標地点に向かって、

世界でたった一つの、“オンリーワン”の人生を生きている——。

そのシナリオを描いているのが、高次の自己=“**ハイアーセルフ**”と呼ばれる存在であることを、

アカデミーに参加して、はじめて知りました。

それは、自身がずっと探求してきた、本当の自分=“**魂(光)**”でもあることがわかりました。

それに対して、地上で肉体という衣をまとって、シナリオを生きている自己を、“**地上セルフ**”といいます。

宇宙のあらゆるすべての生命は、光の源である“**根源(神界)**”から生まれた、

もともとは、“**たった一つのもの!**”(根源の光、ワンネス)ですが、

その一なる源から離れ、宇宙という“創造の海”のような場所で、冒険の旅をしています。^^

地上からみると、宇宙とは無限の階段が根源までつづく、大ピラミッドのようであり、

その所々に、別の姿をした自分(ハイアーセルフ)がいて、

根源へと帰る道を見失わないように、しっかりとつながっている。。

地上セルフに最も近い、最初のハイアーセルフが、“魂”で

魂は、根源母神(究極の愛の源)の分身(分御魂) = 本当の自分自身であり、

地上セルフは、地球という惑星を体験するために衣(肉体)をまとった、魂(=神)の仮の姿です。

神とは?が見えてきました! ^^

神とは、自分の外側に存在する何者か?ではなく、自分自身(自神)であり、全ての人の故郷です。

宇宙というピラミッドを、地上から根源へと上っていく道を、“**アセンション**”と呼び、

根源から地上へと下りてくる道を、“**ディセンション**”と呼びます。

地上セルフから見れば、冒険の旅(ディセンション)の途中で忘れてしまった、創造神の分身、分御魂(子供)としての自己を、再び思い出していくことが、アセンションであり、

アセンションは、意識の進化(神化)、上昇と訳されます。

今どのような状況であっても、意識=人の思い(願い)を、制限するものはどこにもありません。

肉体はその場から離れることができなくても、意識ならどこへでも行く事ができます。

意識は、すべての人が持つ∞の創造力(神なる力)ですが、

地上の人は、そのことを長い間、完全に忘れてしまっていたのです——。

夜空に見えるたくさんの美しい星々、太陽や地球も、人と同じように意識を持っていて、

様々な進化の道のを歩んでいると言われます。

私達は地球と一心同体であり、その地球と一緒に根源へと帰ろうとしているのが、今という時です！

これまで地球は、私達の進化の学びの場として、時に破滅の危機にさらされながらも、

辛抱強く見守り、支え続けてくれましたが、環境問題等、もう限界…、というところまできていて、

人が、一日でも早く、一なる根源神の分御魂(子供)である、真の姿に目覚める日(ワンネスとなる日)を

心から待ち望んでいます。

人と地球(神)が力を合わせて、美しい、“真の地球”を創造していくのです！

NMC(新宇宙)の、愛と光の雛形として——。

《宇宙の学校=NMCAA》

やっと出会えた、ワクワクの学校 NMCAA(ニュー・マクロ・コスモス・アセンション・アカデミー)！

毎日が、驚きと感動の連続で、まさに、水を得た私(魚)？^^

宇宙とは、あらゆる全ての生命が進化していく為の、学校と言われます。

子供の頃大きいと感じていた白山の麓の学校は、本当に、ものすご〜く大きかったのかもしれませんが？！

宇宙の中心を貫く柱(円筒)であり、すべての生命を、その源(頂点)である根源へと導いていく、

“巨大な宇宙学校”だったのかも？^^？

2011年4月、メール(教室)にて出された?の課題。

“**新G**”?とよばれる存在の入学式があるので、各自がそれぞれの場所でフォーカスし、その感想をシェアして下さいというものでした。

。。。。(?_?)。。。。

新Gって?フォーカスって?何をどうすればいいのかまったくわかりませんか? ?

まだアカデミーの事がよく理解できておらず、質問の仕方もわからないまま、当日を迎えました。

とにかく決められた時間に、何かが起こるのかも?と思いながら、

病院のレストランで接客の仕事をしていると、なんとその日は、ピカピカのスーツに身を包んだ、新入社員(お医者さんの卵)?の方がどっと押し寄せてんてこ舞い?! 課題どころではありませんでした…。

帰宅後、仕方がないので適当な言い訳メールを発進すると、しばらくして返ってきたのが、

「まるで探求心がない!」との、(新G)マスターからの伝言? !

あ、え~?! まさか、自身に、マスターなる存在から返事(お叱り?!笑)がくるなんて、

夢にも思っていないでした。

新Gとは、新しい“GWBH”(グレート・ホワイト・ブラザー・フッド)の略で、

地球と人類の進化をサポートしているマスター方とされ、

神(界)と人(間界)とをつなぐ、天界の存在です。本当にいたのですね…(+o+)

その日が、ファシリテーター(教室の先生)を介して、新Gのリアルな言葉?を聞くことができた、

最初で最後の出来事でした! ^^

確かにその日は、何故か入学式の光景そのもので、希望と喜びのエネルギーに満ちていました。

目に見えるものも見えないものも、全てがエネルギー(波動)であり、

五感でキャッチできないものは、六感以上を使う?しかないと思うのですが、

それは決して特別な能力ではなく、例えば、空気を読む、とか、ニュアンスを感じるとか…、

私達が日常的に行っている事でもあるのではないのでしょうか?

何か特別な事、難しい事を言わなければならない気がしていたのですが、例えば、

「今日はピカピカのスーツに身を包んだ新入社員の方が、どっと、レストランに押し寄せ、てんてこ舞いとなってしまいました。その場はまさに、晴れやかな入学式の光景そのものであり、希望と喜びのエネルギーに満ち満ちていて、自身もそのパワーを全身で感じる事が出来ました。」

と、感じたことを、そのまま表現すればよかったのだと思います。

シェアするとは、その時感じていたエネルギーを、もう一度その場に再現することであり、

他のメンバーの方々との共感、共鳴によって、新 G そのものでもあるポジティブなエネルギーが、より明確に、よりパワフルに、その場から拡大していくのではないのでしょうか？

自身は何もしようとしなくて諦めた、新 G は地上セルフに、その事を教えてくれたのだと思います。^^

アカデミーにおける学びでは、“AA”と呼ばれる“システム(探求)”と、“SA”と呼ばれる“エネルギー(実践)”の、二本柱がありました。

エネルギーを感じるだけでは、その場だけの事で終わってしまいますが、何故そうなのか？を探求することで、再現性をもつシステム＝科学となり、誰もが活用していけるようになるのだと思います。

メンバーは、日本各地から参加していて、それぞれ自分の住んでいる地域において、学校で学んだ事(AA)を、生活の場で実践する(SA)日々を重ねていました。

宇宙の法則では、^{アセンション} Ascension = ^{ライトワーク} Lightwork であり、

自己の進化＝他者への奉仕で、自分の為の学びは存在しないと言われます。

アカデミーで学ぶ事は、「今、地球と宇宙にとって何が必要か？」の実践＝ライトワークであり、時に規模が大き過ぎて、それがどれほど重要な事なのか？

初期の頃の地上セルフには、まったく想像出来ていませんでした。(^^;

白山とは、そのまま白山神界の事でもあり、神々という壮大なエネルギー世界でもあったのです。白山比咩神社や白山という場が傍にあるから、自分の担当だ…、くらいにしか思っていませんでした。

宇宙(マクロ・コスモス)と地上のアセンション学校長である Ai 先生とは？

一見普通の女性に見えますが…、知れば知る程に、やっぱり、普通ではありません。。

いつもニュートラルでポジティブ、完全なる調和の中にあり

人としての Ai 先生を一般的な言葉にすると、超人であり、神人なのだと思いますが、

自身が、最も強く感じることは、

**宇宙のはるか根源(神界)から、この地上へと降り立ち、“愛”という旗印を掲げ、
微動だにしない人の姿です。**

愛は確かに、自身にとって最も大切なものでしたが、これまでは、そう言いきる自信がありませんでした。

愛にどれ程の力があるというのだろうか？いつも愛に苦しみ、悲しんできたのではなかったか…？

(なんとなく潜在意識から湧き上がってくる思いである気がします。)

Ai 先生は、

**宇宙とは、愛でできた、愛そのものであり、
私達も愛であり、愛にできないことは何もない——、と明確におっしゃるのです。**

最初のうちは、そうだといいなあ、という感じでしたが、

アセンション(宇宙の真実)について、学ばば学ぶほど、愛とは幻想(理想)ではなく、
宇宙の核であり、宇宙の法であり、宇宙の根本エネルギーなのだという事がわかってきました。

人は神の分御魂であり、∞の創造力があるのだとすれば、私は愛を中心とする宇宙を創造していきたい！

心からそう思えるようになりました。^^

私がアカデミーに参加し、初めて迎えた“母の日”の出来事です。

朝起きると、宇宙の母(Ai先生)にも、感謝の気持ちを伝えなくてはならない！という、

強い衝動にかられ、パソコンの前に座り、手紙を書き始めました。

子供のような大きな声で泣き、怒涛の涙が溢れ出て、画面もよく見えない中で書いた言葉が

「ただ、私達のそばにいてくださることが、嬉しくて、嬉しくてなりません。

どうか、今日もお元気で、明日もお元気で、

ずっとずっと、おそばにいられますように——。いつも、ありがとう♡」

まるで幼稚園児の作文です。^^

ですが、私の一番大切な想いであり、これ以上書いてはいけない…、と思いました。

宇宙学校の校長先生宛ての手紙としては、あり得ないものでしたが、そのままを受け取って下さり、

私の何百倍もの膨大な愛が、帰ってきました…。

私は初めて気付いたのです。

私達はいつも、この根源母神の∞の愛の光に包まれていた。。。

片時も、離れた事などなかったのだ——と。

Ai先生は、宇宙のすべてを遍く照らす、根源の究極の愛の太陽“**根源天照皇太神**”

その地上ポータルであり、すべての命の源なる“**皇御母**”

そして私達はみんな、根源太陽から生まれた愛の子供達“**皇御子**”です。



みんな愛(根源太陽)の子供だよー！

2011年7月、アカデミーに参加して初の、白山登山。

山登りの準備など全くしていなかった地上セルフでしたが、白山に登る決意をしました。

白山の頂上に意識を向けると、なんとなく自己の中心がざわざわします。

頂上で渦巻く、得体の知れない波動の中へと、吸い込まれてしまいそうな感覚…。

そんな微かな感覚に導かれるように、山に登ることを決めたのですが、アセンションと出会ってからの自身は、いつも、どんな時も、そうやって進んできたのだと思います。

何の確証も、保証もない、微かな内なる感覚…、これが、“ハイアーセルフ”なのでは？と。^^

白山に登りたいとAi先生にお伝えすると、北陸部会発足のセレモニー神事として、

登頂することになりました。(一人でヒッチ(^^;に白山へ登っただけですが。笑)

登山までの間、Ai先生と何度かメール交換をしました。

何気ない文言のやり取りでしたが、その時自身は、すでに登っていたのです、根源母神の∞の愛の光に包まれ、究極の愛と神聖の故郷“白山”頂上へと——。

その日の朝は、車から降りられないほどの土砂降りでした。

今日は無理と、一瞬言い訳が頭をよぎりましたが、本当にそれでいいのか？

絶対に後悔するに決まっています。(Ai先生からは、無理しないようにとの御言葉がありました。)

白山とは？白山神とは？が、どうしても知りたくて、若い頃に、何度か登った事があるのですが、父と一緒に登った最初の一回だけが、とてもよいお天気で(室堂に一泊し、ご来光を仰ぎました。^^)、

それ以降、頂上はいつも暴風雨で、吹き飛ばされそうなほどの悪天候でした。

頑張っって白山に登ったからといって、何かがあるわけでもなく、ただひどい筋肉痛にみまわれ、

周りに内緒で登っている手前、隠すのに苦労した…、というだけです(笑)。

でも、その時の経験があったからこそ、今ここ！で、**行ける！！**と思えたのではないのでしょうか？

でなければ、完全にあきらめていたに違いありません。

登る時間を予定より少し遅らせ、雨が少し落ち着いた頃を見計らって出発！時間や距離を考えず、

自身が踏み出す足の一步一步から、根源の愛の光が∞に広がっていく！！！！

とのイメージで登り続けました。

その時登っていたのは地上セルフ一人ではなく、聖なる山“白山”に憧れ、至誠を捧げ続けてきた、

たくさんの先達と共にあり、自身はその尊い足跡を踏みしめているだけなのだ——、

との深い感謝が込み上げてきました。

頂上まであとひと踏ん張りという頃、ヨレヨレ・モタモタ(笑)になって歩いている私の前に、

「六根清浄！」という掛け声を上げながら、やすやすと登っていく、

数名の、山伏風？のグループが、目に入りました。

何故か時折立ち止まっては、こちらの方を見ている？気がして、不思議に思っていたのですが、まるで待っていてくれたかのように、自身が登頂すると同時に、御神事？がはじまりました。

私は釣られて^^、一緒になって、その御神事に参加していました。

自身の祈りは、あらゆる全てに対する感謝と、頂上における“根源の愛の光の大噴火！”でした。^^

祝詞の中には、白山開山の祖とされる「泰澄大師」等、

自身の知っている名前が出てきて、まったく初対面の方々とのコラボ？でしたが、古くからの仲間の一人だったかのような一体感、達成感に包まれ、至上の喜びの中にありました。

御神事が終了すると、山伏さんの一人が、自分の被っていた帽子を取ったかと思うと、

ひっくり返してコップに変身?!「どうぞ！」と、お神酒を振る舞って下さいました。^^

なんと素敵なお偶発の出来事…、疲れが心地よさへと変わっていくのを感じながら、下山しました。

Ai先生はとても喜んで下さり、まずはゆっくりと休んで、その後でいいので、

今日の感想レポートを提出して下さいとおっしゃいました。

レポートなど、これまで書いた経験がなく、ただ一生懸命登っただけで、何を書けばいいのか？

まったく思い当たりません…、その頃は写真を撮る習慣もなかったので、

黒一色の、なんとも味気ないレポートでした。

ですがそこには、何層にも折り畳まれた、ワクワクの世界が広がっていたのです?! ^^

多くの方が、この時の私のレポートのような(味気ない)日常を送っているのかもしれませんが？

常識という概念を取り外し、見方を変え、意識を変え、あらためて見渡してみると、

全く違う世界が見えてくるのではないのでしょうか…？

私には見えてきました! ^^

白山登頂を終え、Ai先生との個人セッションが行われました。

(セッションは、もの凄く重要で貴重な学びの場であり、とても素敵なお偶発の場でもありました^^)

その日の私は、白地に花柄模様の、普段はあまり着ない明るい服を選んで着ていて、開口一番、

「今の白山は、あなたの、その洋服のよう！」と、目を細めておっしゃいました。

。。。?。。。

その洋服のようって? ということ…?

白山は、古いエネルギーをもつ宇宙神界(旧根源神界)でした。

根源の皇御親である Ai 先生と T 先生は、NMC(新しい宇宙)へと向かって、
長い時間をかけて、この白山の古いエネルギーを調整し続けてこられていたとのことで、
その時(自身の登頂)までに、“白金のエネルギー”(神聖なるエネルギー)へとシフトしていたとの事です。

そこへ、根源母神の子供、皇御子ポータルとしての地上セルフが登った事により、

“赤”=“究極の愛”のエネルギーが入った！のだそうです。

白山は旧根源神界であり、それは旧宇宙の姿そのものとも言えます。

旧宇宙の古いエネルギーが、“赤と白金”=“根源の究極の愛と神聖”のエネルギー場へと
大きくシフトした！！！！との事です。

白山は本来、愛の女神の山であり、長い闇の時代、沈黙を通してきましたが、今再び動きだしました！！

「今の白山は、あなたの洋服のよう！」とは、花柄模様=女性性の象徴であり

ようやく、愛と調和の女性性の時代、アクエリアス新時代がはじまる！

との、喜びの表現であったのだと思います。^^

今の話しは何？自身は、映画(夢物語)のストーリーを語っているのでしょうか…？

そうではなく、2011年の夏に、地上セルフが実際に体験した事であり、

目に見えない壮大なエネルギーの世界、宇宙では、実際に起こったことなのです！！

が、当時の地上セルフに、理解(納得)できる内容ではありません…。

その時はただ、ちゃんと頂上まで登りきる事が出来てよかった～！Ai先生が嬉しそうで嬉しい～！

それだけで、大満足の地上セルフでした。^^

その後も、様々なエネルギーについての探求と実践を重ねていくことで、その時のことを、
徐々に、明確に落とし込んでいく過程が、私にとっての、“**根源へのアセンション！**”でもありました。

セッション後のレポートを作成しようとした時、とても不思議なことが起こりました。

『中今の白山』(中今…過去と未来の中心となる“今ここ”)のイメージ画を作成しようと思い、

ワードの新規作成画面を開くと、まだ何も書きこんでいない真っ白な画面から、

次々と“白いハート”が出てきます？

なぜ白いハート(画面上には何も見えません)に気付いたかという、何気なく空白の部分をクリックした時、

四角い枠が表れ、塗りつぶしの色を指定してみると、なんとそこには“ハート”があったのです？！

えっ？と思い、他の部分をクリックしてみると、あっちにもこっちにもあります。。。

それが、白山の女神からの、ちょっと切ないメッセージだったと気づいたのは、随分後になってからです。



その時の作成した画像です。

白いハートを、“赤”に塗りつぶしました！

白山の女神は、宇宙の核心である、大切な“愛”を見失ってしまった旧宇宙を、
悠久の年月、ず～～っと見守り続けてきたのです。

何があっても“愛＝ハート”は、決してなくなるらない！！とのメッセージだったのだと思います。

画像の一番下にいるのが地上セルフで、根源母神のハート(愛)のかけら、

ハムスターのように小さくて可愛い、根源の愛の子供＝“ハム”です。^^

地上セルフは白いハートを赤に変えて、愛で一杯の、本当の白山＝“ハム山”へと、描き直しました！

アカデミーに参加して間もない頃、ハムが急増中！（ハムパンデミック?!）との噂がメールで流れていて
みんな何を言ってるの…？と思っていたのですが、気付くと、自身がハムでした(笑)。

アニメにしかならない現実?!それがアセンションでもあります。^^

“白”ですが、それは、根源の光の色であり、∞の創造の可能性を持つ“フォトン”でもあります。

その時自身が開いた、真っ白な画面には、白山の女神から贈られた、

∞の可能性の未来が広がっていたのだと思います。^^

単なる偶然と思っていた事が、不思議の国(異次元)への入り口であったりします。

白山頂上で突然参加することになった御神事ですが、それは偶然ではなかったのだと思えてきました。

地上セルフが白山へ登ることは、宇宙の計画?!であり、御神事はその完遂式？

お神酒は、全高次との祝杯だったのでは?!と。^^

Ai 先生に頂上での出来事をお伝えした時、
「宇宙連合のサポートでは？」とおっしゃっていたのですが、
地上セルフの想像の域を遥かに超えていて、なんの話…？で終わっていました。
随分遅れて、その言葉の意味が、やっと理解できました。^^
私は一人じゃなかった！たくさんの宇宙の高次に見守られながら、みんなで、白山に登ったのです。
地上セルフの一人一人が、その人にしか出来ない、特別なミッションを持っていて、
目に見えない多くの存在（高次のエネルギー）が、それに気づき、協働創造が始まっていく日を、
心待ちにしているのではないのでしょうか？^^

2011年10月、“神人”現る？！

自身が“神人”という言葉を意識するようになったのは、アカデミーに参加するずっと前の事で、
神は、まだ自分とは別のもの＝“外なる神”でしたが、より身近な存在と感じられるようになっていた頃です。
2011年10月、アカデミー伊勢公式セミナーに参加する前に、個人で外宮正式参拝を申し込みました。
幸運なことに、その時突然現れた御紳士のおかげで、
倭舞から舞楽まである“別大々神楽”を見る事が出来ました。（一人だったら、倭舞だけで終了！でした^^）
袖から出て来た舞手にビックリ？！何故か、どう見ても、人の動く姿には見えませんか？
宙に足が浮いている感じで、操り人形？のようにも見えるのですが、どっしりとした存在感があります。
正面を向くと、面の奥から鋭い気迫のようなものが伝わって、スパークする（火花散る）感じ？！
魂と魂のぶつかり合い、とでも言うのでしょうか…？
最後に、鮮烈な赤の衣装をまとって出て来た“蘭陵王”には、圧巻です！！
神が人の姿をして、目の前に現れた？！という以外に、言葉が見つかりませんでした。
伊勢外宮の御祭神は、内宮“天照大神”の食事の世話をする“豊受大神”と言われますが、
自身は宇宙最高神とされる“天之御中主大神”を感じます。
天之御中主大神が、姿を現わした！？としたら、これ以上の驚きと感動があるでしょうか？
“神人”が、自身にとって、ただの“幻”ではなくなりました。
その時みた蘭陵王は、威厳と気迫に満ちた、雄々しい男性性の姿をしていましたが、
時が経ち、蘭陵王にはもう一つ、別の顔が隠されていたことに気がきました。
伊勢から自宅へ帰った後、聞こえてきた言葉があります。

「私は母なる母——、何も心配することはありません。自信をもって、安心して進むのです。」

その時は、なんかこんな風に聞こえたような…という、おぼろげな感じでしたが、“母なる母”とは、旧宇宙史における母(旧根源の母神)のことで、“白山の女神”そのものであり、まだその時は、アセンションを学び始めたばかりの頃で、神界や宇宙の仕組みについて何もわからず、不安な気持ちを一杯抱えていた地上セルフに、そっとメッセージを届けてくれたのでは…?と。^^

蘭陵王は、中国に実在した武勇を誇る皇族と言われます。

その類まれなる美しさ故に、兵士の士気が下がるのを恐れ、戦場には面をつけて臨んだとされます。

蘭陵王のもう一つの顔とは、母なる母、本当は女性(性)だったのではないのでしょうか？

そして、地上セルフがそう気付くことで、女性性を中心とした愛と調和の時代、

新しい世界がはじまっていくのではないのでしょうか？^^

もしかしたら、外宮正式参拝は、神界による、新旧交代(男性性から女性性中心へ)の

イニシエーションの場だったのかもしれませんが？

突然現れた御紳士が、参拝終了後に、神床の左手にあるお部屋に入っていかれたので、

下宮関係者の方なのかしら…?と不思議に思っていたのです。^^

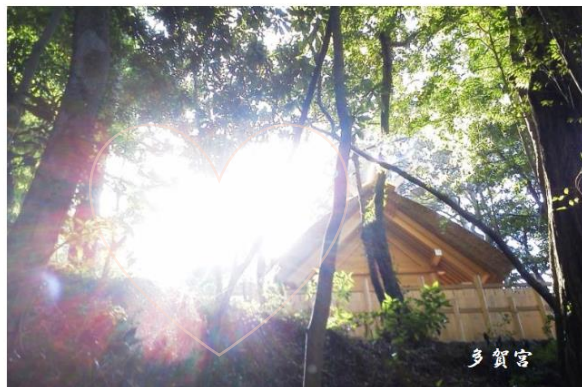
地上セルフには、どこからも、何の説明もないので、本当かどうかはわかりません(笑)

これらの事も、今だからこんな風に表現出来るのであり、

その時は、ちょっと不思議とを感じる体験と、微かな感覚、疑問があるだけです。

ただ、“ワクワクの波”(魂の波動、パワー)に乗って、ここまでやって来たのだと思います。^^

多賀宮では、美しく眩しい、“白いハート”が見えました♡^^



中今の伊勢内宮は、NMC(新宇宙)の核心である“根源天照皇太神”が、

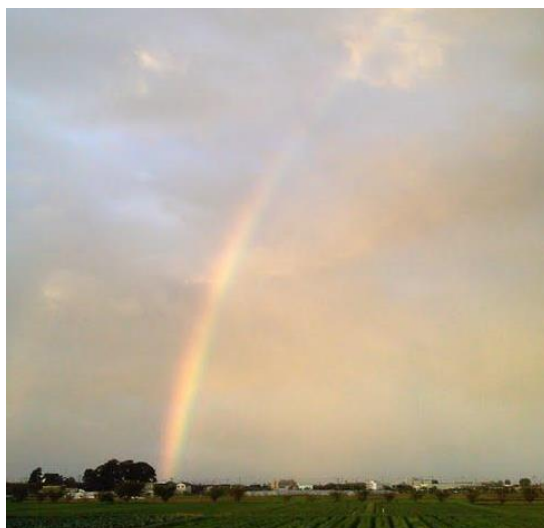
外宮には、“天之御中主太神”が祀られていて

私達は、新旧が一つとなった、新しい地球に生きる“神人”となっていくのだと思います！^^

2012年10月、天孫降臨の地、霧島セミナー神事。

天孫降臨の地霧島で開催される、アカデミー公式セミナーへと出かける日の早朝。

まだ薄暗い中を、車で駅へと向かう道の途中で、
前方に、端から端までくっきりと浮かび上がる、巨大な虹のアーチを発見し、ハッとしました？！



私はこの虹を超えていく？！ そう思った瞬間、異次元の扉が開いてしまったのでしょうか？
なんだろうこの感覚…、まわりに見えるのは、景色というより、何かの表情と言った方がぴったりで、
“歓喜の大嵐”に包まれている感じがします。
思わず車を脇に止めて、宙に向かって、(その場にいる全てと共に)拍手をせずにはいられませんでした。
(人が見てたらおかしいだろうな…と、地上セルフは思いました。^^)
ここにある大自然(=神々)の、とてつもなく大きな歓び、大歓喜を、全身全霊で感じている——、
これから起こる事が、どれほどのことなのかを予告？する、出発の朝の出来事でした。

霧島の宿泊先から会場へと歩いている途中、“布引の滝”と書かれた看板が目に入り、
草の生い茂る道を、川の方へと降りていくと、青い光の滝？が現われ、どきっ?!
地球霊王“サナート・クマラ”?! と呼ばれる存在と、目が合ってしまったかのような衝撃で、
またまた、どうなってるの～?!?(笑)の、霧島でした。^^

今回のセミナーでAi先生が伝えて下さった言霊の中で、最も自己の核心に響いたのは、

「決して、魂にブレーキをかけるな！！」 でした。

魂(神の分御魂である真の自己)を全開にし、全力で今を生きよ！！との意味であり、

全神界から地上セルフに向けての、叱咤激励でもあったと感じました。

そして、その言葉の奥に、美しい和音の響きのような世界があることに気がきました？

Ai 先生 (神界の核) をソリストとした、大交響楽団が突然現われた?! かの様な感じです。^^

それは、核神の響きを、何倍にも共鳴・拡大させる、壮大な宇宙システムのようでもあり、

もしかしてこれが、あの、**新 G (WBH)** では?!

あっ? GWBHを創設したのは、サナート・クマラではなかったでしょうか?

(青い光の滝の光景につながりました! ^^)

新しい宇宙を創造していく“神界”、そしてそれをサポートする“天界”が、今ここ(中今)に揃った!!

新しい神話のはじまり、第二の天孫降臨に向けて!!

霧島神宮創始の地で、Ai 先生が空を見上げておっしゃった言葉、美しい御姿が浮かびます。

「太陽へと向かう道、それが神道である!」と。

“根源天照皇太神”(根源太陽母神)による、NMC 始動宣言!!!に聞こえました。^^

2012年12月、キリストからの、旧宇宙史最後のメッセージ?! 岡山セミナー・神事。

(アカデミーに参加して、いろいろな場所に出かけていました。^^)

2012 年は、マヤ暦の終わり、旧宇宙期の終わりと言われた年です。

“おわりは、次のはじまり”でもあり、今地球と宇宙の未来にとって、何が重要か? という壮大なテーマに、

自分なりに懸命に取り組んでいたもので、未来に対する不安は、まったくありませんでした。

毎年クリスマスの頃に行われるセミナーでは、メンバー同士抽選のクリスマスプレゼント交換がありました。

私の所に来てくれたのは、3 枚の美しいパステルカードで、その一つに

“イエス・キリスト”が描かれていました。^^

自宅へと持ち帰り、自身の Web で紹介しようと、添付メッセージを考えた時、

浮かんできたのが下記です。

—— **メリー クリスマス!!** ——

この宇宙史、そして地球史、最終・最大のクライスト MAX!!

地上において、完全なる統一の中に、迎える事が出来ますことを、とても嬉しく思います。

私の心が、2000年の時を超えて、皆様を中心である、
“ハートと魂” にしっかりと息づき、躍動し、広がっていく様は、まさに奇跡としかいいようがありません！

“生命の樹” は、確かに存在したのです！

このたとえようもない大きな喜びを、私の心を、どうしたら伝わるだろうか？と、もう憂う事もない、

“私の命そのもの” のあなた方へ

この地球史の文末に、“ありがとう！” とだけ、記しましょう！

—— ロード・キリスト・サナンダ マスター・イエス ——

(channel by rumines)

(rumines は、アカデミーにおける初期の頃の、マイネームです。)

人して地上に生きた イエス・キリストのハイアーセルフが、“マスター・イエス”(5, 6次元)であり、

その本源が、“ロード・キリスト・サナンダ”(12次元)と言われます。

“すべてのキリスト” から、地球史を生き抜いた私達一人一人に贈られた、旧地球史(&宇宙史)最後の、

“史上最高・最大の愛のメッセージ！” ではないでしょうか！！

2012年の“12”は、数霊でもあります。以下は、『天の岩戸開き』からの抜粋です。

さて、新アセンション宇宙「NMC」と、ここの旧宇宙の境界線、ボーダーラインは、12次元となっています。

ですから、旧宇宙の最終アセンション・ゲイトは、セントラル・サンでもある12次元の

ロード・キリスト・サナンダが象徴するゲイトとなっているのです。

(そのゲイトは、ある宇宙マスターが守護しています。)

今回のアセンションで目指すべき目的地(及び重要な暗号の一つ)は「アインソフ」であり、

12次元以上のアセンション=新アセンション宇宙「NMC」を目指すという、

とても高度なものとなっているのです！

それがすなわち、真のアセンションであり、自己の最も高次のハイアーセルフと

統合されるということでもあり、「宇宙創始からこれまでのアセンションのすべての集大成、統合、完成」

である、ということなのです！

一なる至高の根源。おおいなるすべて。ワンネス…。どのような表現で呼ぼうとも、それは皆さん自身が

宇宙の創始の時に出発した本源であり、故郷です。そして、宇宙史すべての成果を携えて、

大きく成長してからのそこへの帰還が、今、待ち望まれています！

2012年は何も起こらなかった…、そう思っている方も多いのではないのでしょうか？

宇宙高次では着々と計画が進んでいて、私達のハイアーセルフはそれを知っています。^^

そして 2013 年は、新宇宙開闢年！

(その年はまだ、ほぼハイアーセルフが中心となっていましたが…)

《中今のハム山?!》

2013 年 1 月、『中今のハム山』始動?!

私が地上に立ち上げた 根源のアセンションプロジェクトである

『**根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN**』のはじまりと言えるのが、
『**中今のハム山**』シリーズ(コンテンツ集)で、“**2011 年の白山登頂**”が、その原点となっています。^^

“中今”とは、「神代からのすべてを継承した今、過去と未来を統合した今」のことで、

“ハム山”とは、根源の愛と光の山へと再び帰った、新しい白山のことです。

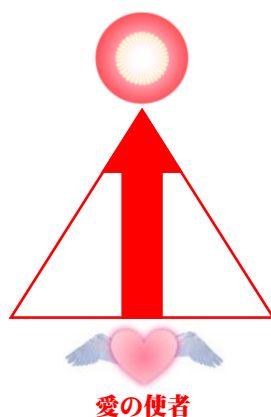
まさに、2013 年は私の全てにとって(地上セルフから究極の御神体まで)の、

新宇宙開闢年だったのです。(その頃の地上セルフは当然ながら、全く気付いていません…笑)

2011 年に、地上セルフが白山頂上に登った事が、どのような意味をもつのか?の全体像が

2013 年になってようやく、見えてきた…という感じです。^^

アカデミーに参加して間もない2月の事、次のような図が示されました。



一番上に描かれているのは、根源エンブレム＝根源の究極の愛の太陽で、自身はこの図に、
愛(ハート)の使者として、すべてを根源の愛の源へと導いていく!との、強い愛の意志を感じました。

シンプルなこの図が、なんとなく、ものすごく重要である気がしていました。
そして7月、白山に登る事となり、Ai先生とのセッション後に描いた、“中今のハム山”の絵が、
コチラです。



なんと?! そっくりではありませんか?!

三角形は“白山”であり、愛の使者は“ハムネス”(地上セルフ)であり、

赤い矢印は、頂上(根源)へと上る“愛の意志”です。

この絵を描いた時、愛の使者の図についてはまったく意識しておらず(忘れていました)、

この二つの画像が似ている事に、地上セルフが気付いたのも、随分後になってからです。

三角形が、たまたま山の形に似ている…というだけで、アカデミーの全メンバーが“愛の使者”であり、

それぞれの場における、素晴らしいミッションがあるのだと思います。

自身は白山に登ることが、とても重要なミッションであり、愛の使者の図は、それを教えていた…、

だから、すごく重要と感じていたのかもしれない。^^

というより、愛の使者の図を初めて見た時、すでに、ハム山の絵は完成されていたのかも?

時間は、過去から未来へと一方通行で流れている…、というのは、3D世界における決め事であり、

すべては今ここに、同時に存在しているのかもしれない。

白山の頂上に登り、“中今のハム山”を描くことで、

地上セルフには、それまで全く見えていなかった様々な事が見えてきたのだと思います。

白山神界という、旧根源神界(旧地球史&宇宙史)の壮大なミッションを持って生まれてきたこと。

地上セルフは、たった一人なのではなく、宇宙の根源まで続く、莫大なネットワークの中にある事。

中今、新宇宙 (NMC) の核神である Ai 先生のもとに集い、愛と光の新時代を創造しようとしている事。

『中今のハム山』シリーズは、アセンションの一步！という感じで、拙いものですが、それら全ての上にあるのが“今の私”であり、その成長 (進化・神化) の過程を、正直に記すことで、

他の方々のアセンションに、少しでもお役に立てば嬉しく思います。^^

思えば、アカデミーに参加してからも、すべてが順調だったわけではありません。

ハイアーセルフは皆、素晴らしいのですが、地上セルフとの間にギャップがありすぎて、

天国と地獄をいつたり来たりしている感じ…、

撃沈、さらに潜水艦 (笑) となり、どうにもこうにもならない時もありました。

そんな時は、**「何でもいいから全開 MAX——！！」**です！

好きな事、楽しい事をして、100%の自分 (充電満タン！) となり (私達はそのままで 100 点です！)

“101” から、またはじめます！^^

私の大好きな言葉、「**楽しくなければ宇宙じゃない！**」

どんなマスター方も通ってきた道のりが、“**ワクワク・ドキドキ？のアセンション！！**”では。^^

2013 年9月、カラスさん現る？！

今気になる神社ということで、お隣福井県にある、“**若狭彦神社**”を訪れました。^^

第一印象は、「ここは、カラスのねぐら？」です。

カーカーという泣き声が、大音量で響き渡っています？！

(余計なお世話ですが、近隣の方はこんな所で生活が出来ているのだろうか…と、心配になりました。)

少し不気味で、知っていたら、一人で来ることを躊躇したに違いありません。

真っ黒なカラスさんには、あまり良いイメージがなく、いつもちよつと遠回りに歩く感じです。^^

(小さい頃、頭をつつかれた？ことがあるような…)

神話の世界でカラスさんは、神武天皇を守護した靈長であり、

“八咫鳥”と呼ばれることを知っていましたが、

この時はじめて、神話に出てくる八咫鳥が、本当に存在しているのかもしれない…と思いました。

ここに来るまでの間、道のあちこちで、何故か、カラスの姿が目にとまり、

羽根を広げて、自身に何かを一生懸命語りかけているような…、不思議な感じがしていて、

来てみたら、やっぱり?!カラスさんで超満員の若狭彦神社でした。

『カラスとともに、ここに来たのだ』と、内なる誰かの声?が聞こえたような…。

誰もいない道を、恐る恐る社殿の方へと上っていくと、そこには、もっとコワイ光景がありました。

神門からみる境内全体が、大きくゆがんでいます?

あ、えっ～～?!

このような不思議な光景は、これまで一度も見た事がなく、というか、これは地上でしょうか?

足を踏み出せば、向こう側の世界?宇宙の巨大な坩堝に飲み込まれてしまう――、

そんな気がして、どうしても、一步も、足を前に出すことができません>(*_*;

『しまった!』という、今度は内なる自身の声?が…。

何故、誰もいないの～～?! (こちらは地上セルフの声)

ここに来ることは誰にも話していない…、なかったことにして帰ろうか(笑)と思いましたが、自身は知っている…、ここまで来て、帰るわけにはいかない…、どれくらい迷っていたのでしょうか?

えい!と踏み出し、(地面が沈んでいかないか?)足場を確かめながら、

本殿の前へと進み、祝詞奏上!

我は根源の皇人

小さき身なれど、∞のポータル!

成すべき事を成す!!

なんと!怖すぎたゆえの、大胆宣言。。。?!

その後少し落ち着きを取り戻し、帰りかけた頃、人影が見えてきて、ホッとひと息…。

「しまった!」?と聞こえたのは、自身のハイアーセルフの声?であり、

「カラスと共に、ここに来たのだ」?と聞こえたのは、ハイアーセルフ以外(八咫鳥?)の声?

どちらも内なる声ですが、前者は自身のハイアーセルフであり、

後者は、ハイアーセルフがつながっている宇宙ネットワーク(=ヤタノカラス?)でしょうか?

地上セルフにはよくわかりませんが、微妙に違う感じがしました。

八咫鳥の“八咫”とは、は、三種の神器の一つである“八咫鏡”の八咫でもあり、

本来は“太陽”を表すものであると言われます。

カラスさんの黒は、太陽が映し出す影の色、光と影、陽と陰は、表裏一体であり、

日本の歴史の中で、天皇という太陽(天照神)を、常に陰から支え、導いてきたのが八咫鳥さんです。^^

これまで自身が感じていた神とは、優しくて和やかな慈愛の神、女性性の象徴という感じでしたが、若狭彦神社で見たのは、人などひとたまりもないと思うほどの無敵のパワー、無尽の創造性という感じで、前者が神の“和御魂”、後者が“荒御魂”と呼ばれるものなのかもしれません。

「日本の歴史の陰に、八咫鳥あり！」とされ、

歴史を左右する重大な局面において、大きな役割(神の荒御魂の側面)を担ってきたと言われます。今天地がひっくり返る程の転換期が迫っていて、地上セルフはカラスさんにその覚悟を問われた？！

何があっても、皇人＝“根源の、∞の愛と光のポータル”として、生きる！！

地上セルフとハイアーセルフの全てが、究極の覚悟を決めた瞬間だったのかもしれない。

(八咫)カラスさん、これからもどうぞよろしくお願い致します。^^

《2013 伊勢遷宮祭》

2013年10月、遷宮の年に行われた、伊勢神宮公式セミナー・神事に参加しました。

2013年は新宇宙開闢！“出雲”と“伊勢”の両方の遷宮が重なり、日本神界の統合を感じます。

私達の宇宙が存在する目的とは、全ての生命の進化(成長)の為であり、

その究極の目標が、“**神人の創生！**”にあるといわれます。

それは、宇宙創造主神の願いそのもので、創造の喜びを共に分かち合うことが出来る、大いなる存在(神人)が、この地上物質世界に誕生する事を、心から望んでいるのだと思います。

無から有が生まれる…、形なきものが形となって、微細かつ高度に進化していく過程には、

一体どれほどの年月とエネルギーが、注ぎ込まれているのでしょうか？

様々な意味で、根源(神界)から最も遠い、この地球に住んでいる私達には、宇宙史の全てがあり、

愛と光全き神の姿そのものである“神人”の創生は、創造の極みと言えるのかもしれない。^^

地上セルフは広大な宇宙を理解するために、大きく三つの領域に分けて考えています。

一つ目は、創造の神々が住む世界である“**神界**”、

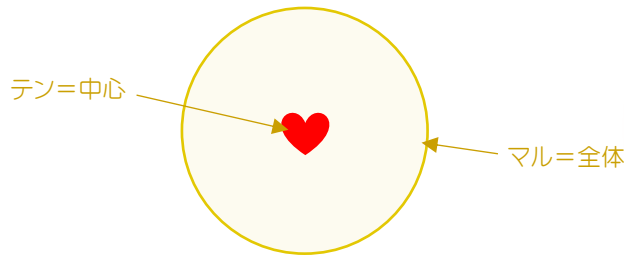
二つ目は、神々の仕事をし、神と人をつなぐ役割をもつ“**天界**”、

そして三つ目が、私達人が住む“地上界”です。

イメージしやすいよう、自身が感じる宇宙を、図に表してみたいと思います。^^

私にとっての宇宙とは、∞の広がりを持つ**マル** (球体) です。

中心にあるのは、“**愛**”と呼ばれるエネルギーの核=**テン**で、ここでいう愛とは、
全ての生命を生み出し、宇宙という創造の場を与え、成長を見守り、
つなぎとめている、“**究極の求心力**”です。



【マルテンの形象】



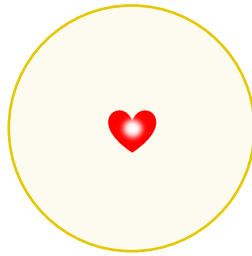
宇宙=愛の渦

宇宙には、愛の中心="テン"と、テン(愛)が広がって出来た“マル”があるだけです。

これは、“**神界**”を象徴する“**マルテンの形象**”と呼ばれるものです。

宇宙はたった一つではなく、∞に存在すると言われ(マルテンの形象も∞にあるという事だと思います)、
それら全ての中心の中心=あらゆる全ての生命が生まれ出た場所が

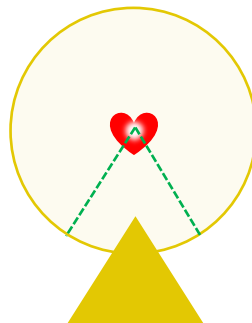
“**根源母神界**”(=究極の愛の源、下記の白丸)です。



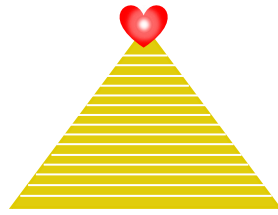
マルテンの形象は中心と全体があるだけなので、抽象的で、とらえどころがない感じです。

(神界とは、そのようなものである気がします。)

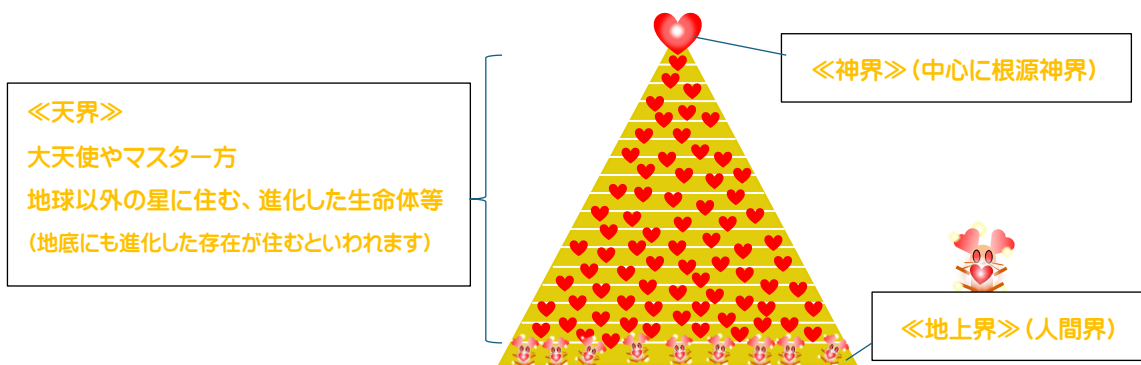
そこで、下記のように、点線の部分を切り取ってみると、一つのピラミッド形が見えてきます。



宇宙を、“球体”ではなく、“縦軸”（座標軸）で見ると、ピラミッドとなり、
その天辺は球体(マル)の中心であり、底辺から天辺へと上る、∞の階段(次元界層)が見えてきます。



ピラミッド型(として見る)宇宙の一番下の階にあたるのが、私達“人”の住む、3次元“地上界”、
一番上が“神界”(中心は根源神界)、その間が“天界”となります。



神界と地上界の間にある、∞の階段が、

私達が根源から生まれて、地上へと降りてきたそれぞれの道です。

ハートの一つ一つが、“ハイアーセルフ”と呼ばれる、

次元階段を上り下り(アセンション&ディセンション)する私達自身の姿で、

私達は皆、神の子としての創造力を使い、思いのままの、冒険の旅をしてきたのです。

ピラミッドの上部(天界の上部)にある“ハート”を、私達は時に、大天使やマスター等と呼び、

“神”と“人”をつなぐ、高い叡知をもつ“愛(神)の使者”の事ですが、

それらもまた、私達とは別の存在ではなく、ピラミッドを上り下りしている時の、自身の姿でもあり、

“根源の愛の源”へと帰っていくための、大切な目印、目標でもあります。^^

これまでは3次元という一番下の段にいて、同じ階の、横への広がり(富や名声等)を求めて、

必死になっていましたが、もっと上に∞の階段があった事に、ようやく気付いた?!

宇宙の真実を識る、という事であり、上へいくほど、宇宙全体=“∞の愛の世界”が見えてくる…。

一番下で、ハム(根源の子供)同士で、ごちゃごちゃしててもつまらない(笑)ではありませんか?

そのための学びが、意識の進化・上昇・拡大・統合といわれる“アセンション”です!^^

新宇宙開闢！伊勢遷宮の年の2013年、10月の伊勢セミナー・神事が開催された日、

私達は、自己の最も高い“御神体”と一体化し、

神人となっていく、その一步を踏み出しました(神界のお誕生日)！

私達が1000億年(メタファーですが)という長い年月をかけて準備してきた、

そして、新たな1000億年のアカシックを創造していくための、“終わりで始まり”の時であり

史上最大のイニシエーション！宇宙お誕生日！とも言えるもので、

真に宇宙では、この瞬間(伊勢の私達)が実況中継?されていて、「おめでとう！おめでとう！」と

高次からの限りない祝福がこだまし、膨大な愛と光のエネルギーとなって降り注いでいる…。

とAi先生からお伝えいただいた時は、喜びと晴れがましさとで、胸が一杯となりましたが、

まだ夢の中にいるような…、信じられない気持ちもありました。

地上セルフはここにくるまで、いつも何だかよくわからないまま(笑)、とにかく行動(参加)していて、

それはどういう事なんだろう？と、今一度考えてみると、

その時々において、自身の直感(直観)を信じ、選択・行動してきた！ではなかったでしょうか？

今の自身は、宇宙の全てを見渡す事ができる完璧な存在としてではなく、

地球上に立つ、地上セルフとしての役割を、可能な限り実践してきたのだと思います。

2013年の伊勢遷宮祭での出来事は、ほぼハイアーセルフの動きが主体だったのでは？と感じます。

何故ならば、それは日本という国を越えた、地球規模、宇宙規模の大遷宮祭でもあり、

ハイアーセルフでなければ、対応出来ないものだったからではないでしょうか？

宇宙が存在する目的でもある、神と人が一体となった“神人”となること、それは

宇宙のはじまりから、私達が目指してきたことであり、今生一旦全てを忘れてこの地球に生まれ、

地上セルフが自らの意志で選択し、そして高次からも、明確にノミネートされた！

それが伊勢遷宮セミナー会場で起こっていた、宇宙を挙げての祝祭、宇宙誕生日だった？！

地上セルフはわからないながらも、その時の情報を、圧縮ファイルとして受け取っていて、

進化(アセンション)していくに従って解凍され、消化し、生かす事が出来るようになってくるのだと思います。

2013伊勢遷宮祭で起こった、最も重要な事(遷宮の核心)とは、

根源の光(根源太陽)そのものが、日本神界の表玄関である“伊勢内宮”

≡地上の人々の、集合意識の場に降りた!!!

という事です。

たくさんの神々がいる中で、何故、“天照大神”が日本人の総氏神、神々の中心とされるのか？

自身にとっては疑問でもあったのですが、理解されてきました！^^

ズバリ、今この時、根源へのアセンションの為！！

あらゆる全ての命が、その故郷である“根源の太陽(天照)”

＝“根源の究極の愛の源”へと帰っていく、そのはじまりの地が、ここ、“日本”である！！

という事ではないでしょうか？

神社へは、誰もが足を運ぶことができます。

全てを黙って受け入れてくれる母のような存在が、伊勢の天照大神であり、

その究極の源＝“根源天照皇太神”が、

地上の“集合意識の場”に降りる？！という、奇跡が起こったのです。

(高次元の存在が低次元の地上に降りる事は至難と言われ、どれほどの覚悟が必要なのでしょう…)

これほど重要な事が起こっていた、伊勢遷宮祭(セミナー・神事)から帰宅後、
地上セルフは相変わらず、何が起こったのかまるでわからず、ふて寝(昼寝)をしていたのでした(笑)。

すると、「君が出なくて、どうするんだい！」と、

誰かが私を、華々しい大パレード？の列に引っ張り込もうとしたので、あわてて飛び起きてしまいました？！

今のは何…？夢にしては、リアルです？！

後日開催されたセミナーにて、Ai先生より、その日伊勢で何が起こったか？

先に述べた、“遷宮の核心”についての説明があり、

さらにその裏でもう一つ、驚きの出来事があったことを知りました。

宇宙高次の存在が、人に高度な内容を、わかりやすく伝えるためによく使う方法として、

“アニメ”があるのだそうです。

遷宮後の伊勢内宮にあったのは、“**ハートのお宮**”

それは、全ての人のハートの中心であり、集合意識の中心に輝く**“愛”**

「愛は宇宙で最も大切なもの！たった一つ愛さえあれば、今すぐにでも人は幸福になれます！」

これはAi先生の御言葉ですが、絶対的な真実だと思います。

愛は精神的な豊かさや安らぎをもたらすだけでなく、

社会のあらゆるものを、あるべきところへと循環させていく、唯一の潤滑油であり、

全ての人々が平等で豊かな社会を実現する為の、“最大の叡知”なのではないでしょうか？

「伊勢内宮にあったハートのお宮」とは、
「人類すべてを救済する！」という、根源母神の、“究極の覚悟”の象徴です。

そして、その裏側で起こっていたのが、“ハムの遷宮祭”です。

「ハートのお宮」をそこに置いたのは、私達(根源の愛の子供達) = “ハム” でもあったのです！ ^^

—— ♡ハムの遷宮祭♡ ——

(2013年10月内宮遷御式の夜に、Ai先生が見られたビジョンの抜粋です。^^)

内宮遷御式の夜に、すべてのハイアーセルフも、一斉に「遷宮」=「引っ越し」を開始したのです。

どこへ？ですが、それは、この旧宇宙から、新・アセンション宇宙へです！

新・アセンション宇宙の根源の神殿へ向かって、無限の存在たちが「遷宮」=引っ越し
=アセンションしていく！ (=ハムの遷宮祭)



その存在(ハム)たち皆がそれぞれ、リヤカーみたいなものを一生懸命引っ張っていて、
その上に一人ひとりのお宮が載っています。

そのスケール、鮮明さは、壮絶なもので、一晩中ずっと、その宇宙規模の大行列が続いたのでした！

ハムたちは、地球時間で一晩中かかって、とうとう新・アセンション宇宙の根源の神殿に
たどりついたようでした。でも、これだけでは終わらなかったのです。

なんと今度は、新・アセンション宇宙の根源の神殿から、皆さん一人ひとりの地上セルフに向かって、
神聖な、根源のエネルギー(フォトン)を贈り始めたのです！



それは、三日三晩続きました。なんという神聖な願い！なんという強い願いでしょう！
すべてが、日の本の大遷宮祭の最終本番へ向かっての準備でした。(『皇人すめらびとII』より)

私達のハイアーセルフは、根源の愛のお宮を地上に創るために、一生懸命根源へと上り
根源の光(フォトン)を、地上セルフに贈り続けた——。

アニメが、多くの人々を魅了するのは、それが、宇宙の真実(=∞の創造の場)であると
本当の自分(魂)が、知っているからなのではないでしょうか？

自身が今、“ハムの遷宮祭”に見ているのは、白い根源の光の山“白山(ハム山)” そのままであり、

「根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN」です。^^



NMCの雛形である、新しい地球(根源の皇の星“地球”)において、
根源母神(根源太陽、究極の愛の源)を中心として、神界、天界、地上界の全てが一つとなり、
∞の愛と光の新宇宙を創生していく、根源アセンション・プロジェクト！！です。

自己の最高の御神体と一体化する、とは、
一人一人が神として創造してきた、一つのピラミッド(小宇宙)の頂点の座(神界)に立ち帰り、
全体を見渡せるようになる…、ということなのだと思います。
ピラミッドの高さや大きさは、創造神としての個々の進化の段階によって、様々なのだと思いますが、
その中に存在するものは全て、自神の分身であり、別の姿であり、大切な宝物で、
その全てを引き受け、根源の愛の源へと導いていく、という事でもあるのだと思います。^^
地上セルフ自らの意志でそうなることを選び、宇宙高次(天界)からもそれを承認された、だから
宇宙中から祝福が送られる“宇宙お誕生日”であり、“神界のお誕生日の一步”ではないでしょうか！



。。。ということで、パレードに引っ張り出されたのは、正夢だった？！
そのパレードは、根源の(愛)のお宮が地上に誕生したことを祝う、壮大な宇宙パレードであり、
「君が出なくてどうするの！」とは、ハイアーセルフが地上セルフに向かって言った言葉！
自身も胸を張って、その列に加わりたいと思います。^^

《様々なイニシエーション?!》

それから一年後の2014年10月、京都における公式神事・セミナーに参加しました。^^
アセンションの学びの中では、とんでもないスケールの、信じられないような事が、多々起こりますが、

普段の生活に戻ると、いつの間にか忘れてしまう…。

どちらも、地上セルフが実際に体験している事ですが、3次元における諸々は、
肉体や感情へのダメージが大きいので、時々、自分に自信がなくなってしまう…。
大切なセミナーに向けて、気持ちを切り替える為に、白山比咩神社日参を思い立ちました。

はじめの内は、「自分には何が出来ますか？」と、問いかけていたのですが、
そうではなく、まず自分はこう在ります！という、明確な“自分軸”を確立することが大事！

絶対にそれをやるのは、自身(自神)でなければならない！と決める事、

そこからしか始まらないのでは？と思い、

「私は、白山(神界)の揺るぎない愛と光の柱となります！！」という、明確な宣言に変え、

21日間の日参を終了しました。^^

京都へは、いつも電車で向かうのですが、地元の駅には、
白山を眺めることが出来る場所があり、当日その場が、菊の花で埋め尽くされていました？！

(その日は、菊花展が開催されていたようです。)



何度も利用している駅ですが、はじめて見る光景——、もしかして、日参の証？！

白山神界&菊理姫からの、応援メッセージ？！

それがもし勘違いであったとしてもOK！地上セルフは、パワー全開で京都へと向かいました！^^

セミナー参加前に、“京都御所”へ立ち寄りました。

京都は日本の歴史に大きく関わる場所であり、とても神聖な日本神界のエネルギーを感じます。

御所の回りをグルリと巡る、ハート(&魂)のエネルギーワークに取り組みました。

自身のハートに、そこにある全ての愛の願いを集め、∞に共鳴・拡大させていくイメージです。

一回りした後、ベンチでちょっと休憩し、撮ったばかりの写真を見て、あれっ？

御所の上空に、雲がぐるりと円を描くように並んでいます？！



大空に浮かぶ雲も、自身と一緒にまわってたんだ～～？！

真に、皆が“ハート(愛)で一つ！”であり、大自然をも動かす力が、人の意識にはあるのです！！！！

京都御所は、白山比咩神社以外で、一番訪れている回数が多い場所かもしれません。

立派な木々(神柱と感じます)が立ち並び、一面が真っ白なフotonで出来た庭という感じです。

建礼門の前へとくると、中に吸い込まれてしまいそうな感覚があり？この奥には何があるんだろう…？と

思っていたのですが、“令和”まであと数日となった2019年4月、初めて中に入る事が出来ました。

そこにあったのは“紫宸殿”で、こんな所まで来てしまっているのだろうか…？というのが、第一印象でした。

「紫宸殿(しんでん、しいでん)は、内裏の正殿。天皇元服や立太子礼、譲国の儀、節会などの

儀式が行われ、のちには即位礼の舞台となった。」(ウィキペディアより)。

明治・大正・昭和の3天皇の即位礼が行われた場所とされ、その神聖なるエネルギーが、

そのままそこにある事を、自身は感じたのだと思います。

2019年(平成31年)4月は、離れた所から紫宸殿を見ただけですが、

2020(令和2年)年7月には、皇居で行われた“令和の即位礼正殿の儀”に用いられた、

高御座・御帳台が、紫宸殿の中に置かれているのを、間近に見ることが出来、

その時の写真や装束等を再現する人形等もあり、

まさに、皇居における即位礼正殿の儀の“京都御所版?!”という時空でした。^^
日本の歴史の全てがそこにある感じで、地上セルフが、“イニシエーション?!”という言葉を、
生まれて初めて、明確に意識した場面でもありました。

(その場には、リラ星人さん? 等、地球以外から起こしの方々もいらっしやいました。後述します。^^)

2015年2月11日“建国記念日”には、“**廣田神社**”に参拝していました。^^

(いつ何があったか? 忘れかけています…(^;))

廣田神社は、アカデミーに参加してから、よく通うようになった神社で、
御祭神は、“天照大御神の荒御魂”とされます。(伊勢内宮第一別宮“荒祭宮”御祭神と同体です。)

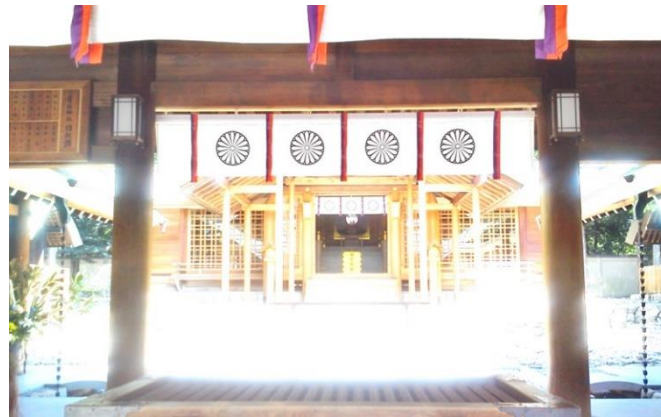
別名を、撞賢木巖之御魂天疎向津媛命(つきさかきいつのみたまあまさかるむかいつひめのみこと)と言い、

あまり聞いたことのない名前ですが、“瀬織津姫”の事とも言われます。^^

自身が廣田神社に惹かれる理由は、その美しい“御神鏡”にあり、

まるで、“剥き出しの魂”がそこに置かれているかのようで、

懐かしさと…、少し痛ましくもあり、嬉しくもある…? そのような感じです。^^



廣田神社の社領である六甲山は、創始にアインソフの神都があった場所で、
アンドロメダ、聖母庁、女性性のエネルギーに満ちた座標であり、シャスタ山とは対であるとの事。

六甲山へは、個人的に一度訪れたことがあるのですが、

そこにあった六甲山神社の御祭神が、なんと、“菊理姫”なのでした?!

撞賢木巖魂天疎向津媛命の奥宮とも言われ、私が廣田神社に惹かれないわけがない、でした! ^^

瀬織津姫も菊理姫も、根源母神(根源天照皇太神)から生まれた愛の女神であり、

時代や役割を変えて現れる、根源の愛の使者(化身)です。

その日は建国記念日という、重要な節目でもあり、正式参拝をさせていただいたのですが、

何故か、いつもの“御神鏡”がありませんでした？(そんな時もあるのでしょうか…?)

心にぽっかりと穴があいてしまったかのような、淋しさを抱えながら、

一人椅子に座って、参拝がはじまるのを待っていると…、

(シーンワン、スタート?!)

大地を染めるように、赤い陽の光が降り注ぎ

強い風が、バタバタと音をたてて、菊花紋をなびかせる

何処からか聞こえてくる、大音量の雅楽

その旋律に合わせるように、ドーン、ドーンと、地鳴りのような

太古(太鼓)の響きが押し寄せてくる…

新しい、日本がはじまる！

込み上げる涙、魂の震えを、どうしても抑えることができませんでした——。

まるで、神話のワンシーン? のようですが、その時の光景を表現すると、こんな感じです。

後から考えると、まさに、新しい日本の建国記念日のような情景だった気がします？

そして、参拝を終えて帰る途中、ふと振り返ると、そこには“御神境”が置かれていました?!

新しい自身(自神)が、そこにいるような気がしました。^^

2015年5月には、たくさんの神社仏閣を訪れる事になりました！(つながりは不明です)^^

京都の**鞍馬寺**、東京の**浅草寺**、長野の**善光寺**、

そして、“白山三馬場”と呼ばれる、地元石川県の**白山比咩神社**、

福井県の**平泉寺白山神社**、岐阜県の**長滝白山神社**の、三つの神社を巡りました。

自身は小さい頃、お寺の庭でよく遊んでいたもので、仏界には懐かしい故郷のイメージがあります。^^

三つの寺院とも、ご本尊は秘仏とされ、普段は見る事ができない仏様であり、

御開帳と言われる公開日が設けられているものと、絶対秘仏(完全に未公開)とがあります。

善光寺御本尊の“阿弥陀三尊”像と、浅草寺の“聖観音”は、共に“絶対秘仏”であった事を、

後に知ったのですが、この二仏に、“十一面観音”(鞍馬寺の“千手観音”)を加えると、

なんと、“白山三所権現”(十一面観音を本地とし、聖観音と阿弥陀如来の三尊)?!となり、

自身がこの三つの寺院を、同時期に訪れたのは、偶然ではなかったのではないのでしょうか?^^

仏様が“秘仏”となる理由は、信仰上の理由であるとか、防犯や保存の目的等様々あるようですが、

私はこの“秘仏”に、“神人”の姿を感じます。^^

神人とは、真には“神(天)人”であり、地上セルフ(人)に、神界・天界の全てを統合した姿です。

仏様は、神と人をつなぐ天界の存在であり、神と一体となった神人が誕生することで、

秘仏は表に現れる?!というより、厨子の奥に隠された“絶対秘仏”など、本当は存在していない?!

絶対秘仏とは、弥勒の世(神人の世)を行きかう、私達自身の事であり、

その予言ではないでしょうか? ^^

鞍馬寺は天狗が連想されるので、自身にはちょっと怖いイメージがあったのですが、

実際訪れてみると、まったく違っていました! ^^

鞍馬寺の御本尊は、“千手観世音菩薩・毘沙門天王・護法魔王尊”が三位一体となった

“尊天”とされ、子供にもわかる鞍馬の祈りの言葉

「月のように美しく、太陽のようにあたたかく、大地のように力強く」のエネルギーそのままでした。^^

後日、参道を歩いていると何やら視線を感じ、目をやると、店屋さんに飾られた天狗の面の数々…、

どれも威厳に満ちたお顔で、この鞍馬の地を大切に護っているのだと理解され、

自分勝手なイメージを持っていたことを、反省しました。

2017年に、鞍馬を代表する? 大天狗のモニュメントの鼻が、雪で折れてしまった…との、

ネット記事を見て、ドキッ?! 何故かと言うと…、



こんな事をしてたからです。(笑)

その後、2019年10月には、二代目が誕生し、鞍馬山保育園の子供達に囲まれている写真を見て、

ほっこり! ^^ 子供から大人まで、多くの人に慕われる、鞍馬の大天狗さんなのでした!

地球霊王とされるサナート・クマラは、護法魔王尊 = 大天狗(天狗の総帥)とも言われ、

地 = “力の側面”だけでなく、尊天として、本来のパワー(日月地の三位一体力)を

発現する時代がやってきたのではないのでしょうか? ^^

自己の描いていた光景と全く違っていた、もう一つの場所が、平泉寺白山神社でした。

何故か、なんとなく暗いイメージがあったのですが、

文字通り“光の庭”で、自然の風物が日に照らされ、光り輝いて見えるというのではなく、光が風景に化けている…という感じ、青々とした苔の庭に、頭に突き刺さるのでは？(笑)と感ずるほどの、力強く、美しい、鮮明な光が一面に降り注いでいて、夢の世界に紛れ込んでしまった…、としか表現できない、美と光の世界でした。^^



平泉寺には、白山開山の祖泰澄大師を、白山の頂上へ導いたとされる女神が現われた場所、“御手洗池”があり、まるで“底なしの光の宝石箱”？を、覗き込んでいるかのような…もしかしたら、地底にあるとされる、∞の光の国“シャンバラ”が、そこに映し出されていたのかもしれませんが。^^



平泉寺白山神社御祭神は、“伊奘册尊”(伊邪那美命)で、

その両隣りに、“天忍穂耳尊”と“大己貴尊”(大国主命)が祀られています。

白山比咩神社は、本宮の北方にある舟岡山に創始の地があり、三馬場の中で最も創建が古いとされ、

白山信仰の総本山となっていますが、平泉寺白山神社も隆盛を極めた歴史があり、

江戸時代には、白山頂上奥宮の祭祀権を獲得するほどの勢いをもち、

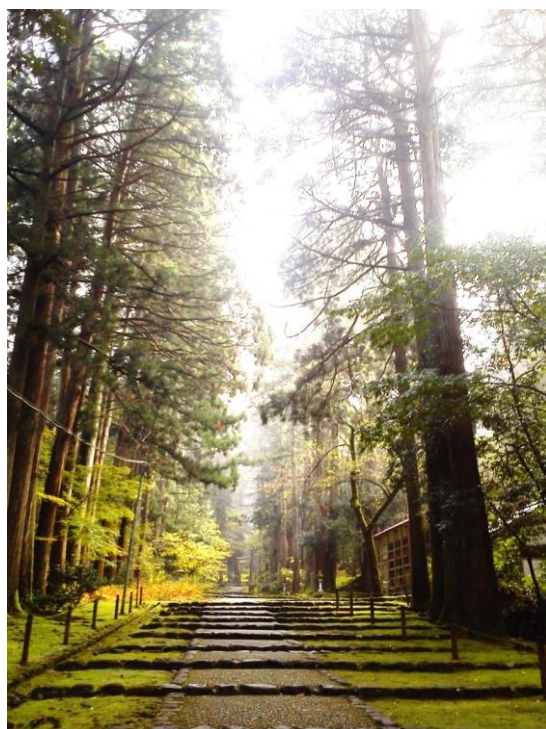
白山神界の、“最高峰”としてあつたのだと思います。

三つの馬場が、それぞれの時代の役割を担い、共に白山神界を継承してきたのだと思います。

そして、“はじまりとおわり”、旧宇宙から新宇宙への橋渡しの御役目が、

“白山比咩(秘・日女)大神”＝“菊理姫”なのでは？と。^^

平泉寺の背後に聳えるのは、根源の光の山白山であり、参道は、まさに“根源の光の道”です！！



何故か、とてつもなく**勇壮？！**と感じる坂道に、胸が大きく高鳴ります。

そして、「この道は、準備されていた——。」という、不思議な感覚が湧き起こってきて、

地上セルフは、感謝と喜びに足が生えて、歩いているかのようにでした。

。。。。。

その時の圧縮ファイルも、徐々に解凍されていきました。^^

自身の産土神社創始の御祭神は、“川上御前”であった事が、碑に記されています。

東島神社は天徳年間、村の南方に一堂を建立し、川上御前を祀ったのを創始とする。

承保年代、越前平泉寺との紛争のさい、祭神を譲ったが、その後一旅僧の預け残した、
上宮厩戸豊総耳皇子の立像を祭る神として、村の中央西側に社殿を造営し祀ったと伝えられる。

(神社庁 Web より抜粋)

川上御前は、泰澄大師が御手洗池で出会った女神とされ、
平泉寺のご本尊として、33年ごとに御開帳される秘仏でもあるようです？！
川上御前に導かれて、自身はここへとやって来たのかもしれませんが。^^
地上セルフには謎だらけですが、川上御前、伊邪那美命、菊理姫等は、全て白山の神であり、
地上セルフにとっては、根源の光の源へと向かう、道しるべとなる神々です。
この愛の女神達を、時に隠すようにして、大切に護りつないできた、**勇壮なる歴史の大道**——。
「準備されていた！」と、その時地上セルフが感じた、その答えではないでしょうか？
長い間続いた夜(闇)の時代には、筆舌に尽くしがたい、様々な事があつたのだと思います。
その中であつて、多くの先人(&宇宙高次)によって、死守されてきたこの道は、まさに“勇壮”であり
それは、あらゆる全てが、究極の愛の源へと帰っていく、宇宙の中心軸、
グレート・セントラル・サン・ネットワーク＝“根源太陽道” そのものでもあるのではないのでしょうか？
その日の平泉寺白山神社は、究極のクリスタルであり、宇宙の愛と光の全てを映し出す
∞のポータルとなっていたのだと思います。^^

2015年6月、京都セミナーに参加する前に、太秦“**広隆寺**”を訪れる事にしました！^^
広隆寺は、『**約束の場所**』と浮かびます？
遙か昔(中学生の頃?)、観光パンフレットか何かで、その名前を目にした記憶がありますが、
別にどうする訳でもなく、ただ、ずっと頭の隅にしまわれていた…感じがします。
広隆寺と言えば、国宝第一号とされる“**弥勒菩薩半跏思惟像**”が祀られている寺院です。
本堂にて、ガラス戸越しに見える“**聖徳太子像**”に、感謝のご挨拶をし、
そそくさと、弥勒菩薩が祀られているという靈宝殿へと、行ってしまったのですが…、
それは、あり得ない状況だった事を、数年後に知る事になります。
令和を目前にして、明仁天皇(現上皇)が即位された時の映像をTVで見ても、
あれっ?どこかで見た光景…となり、そこで思い出したのが、広隆寺の聖徳太子像でした。
聖徳太子像が着ていた衣装と、天皇の衣装が、よく似ています?!
調べてみると、「**黄櫨染御袍(こうろぜんのごぼう)**」と言われる、天皇だけが身につけることの出来る、
赤茶色の装束で、歴代の天皇が即位の大礼で身につけたものを、広隆寺の聖徳太子が、
その天皇の在位の間、身につけているのだそうです?!

私がガラス戸越しに見た聖徳太子像は、まるで人が、すぐ目の前に立っているかのようでした。

これまで私の中にあった聖徳太子のイメージと、全く違っていて、誰？となったのですが、(確か?)「聖徳太子像」と書かれた標識が横に置かれていたのを見て、そうなんだ…、と思ったのでした。

なんとなく、違和感を覚えた理由が、随分後になってわかりました。

広隆寺の聖徳太子像は秘仏とされ、毎年11月22日の御火焚祭にのみ公開されるとの事、

私が訪れたのは6月なので、そこにいるはずの無いものを見ていたのです？！

どうしてあの時聖徳太子が、自身の目の前に立っていたのだらう…？と考えて浮かんだ事、自身の産土神社創始の御祭神であった川上御前を引き継いだ？のが、“上宮之廢戸豊聰耳命”

=“**聖徳太子**”なのでした？！(前述した神社庁 Webにあります。)

産土神社は小学校のすぐ隣にあり、通学路となっていました、その頃の私は、

神社なるものにまったく興味がなく、御祭神の名前も知りませんでした。

ですが、「産土神と約束をして、私達はその地に生まれてくる——。」と言われます。

地上セルフにとって、とても重要な存在であり、最初に「約束」という言葉が浮かんだのは、

このことだったのかもしれませんが。^^

どのような約束したのでしょうか？そのヒントが、中今の産土神社御祭神にあるような気がします。

故郷の神社は、ダムによる水没を免れた地域の、高台に移遷されています。

当時村は、手取川を挟んで東西に分かれていて(東島と西島)、神社もそれぞれにありましたが、

今は合併され、二柱の御祭神が一緒に祀られています。

東が“**上宮之廢戸豊聰耳命**(聖徳太子)、西が“**天照大神**”です。

自身が中今そこにイメージされるのは、“**イエス・キリスト**”と“**マグダラのマリア**”が、仲良く並ぶ姿です。

“伊邪那岐と伊邪那美”、“饒速日と瀬織津姫”、“国常立大神と豊雲野大神”でもあり

また、“弥生と縄文”、“アトランティスとレムリア”でもあるのでは？と。^^

様々な時代の天皇を、裏で支えてきた聖徳太子が、新しく迎える“令和”という時代に込めた願い——、

それは、陰陽すべてが相和し、愛と調和と喜びに満ちた、新時代の到来ではないでしょうか？

そして、中今の産土神社に、太子と共にまつられている“天照大神”が、“**根源天照皇太神**”であったと、

地上セルフが気付くこと、イコール、“**皇の星地球**”のはじまり?!と言えるのではないのでしょうか？

(約束守りますね!^^)

広隆寺の(新)霊宝殿は、柔・剛様々な表情を持つ沢山の仏像が並び、その中心にあつて、

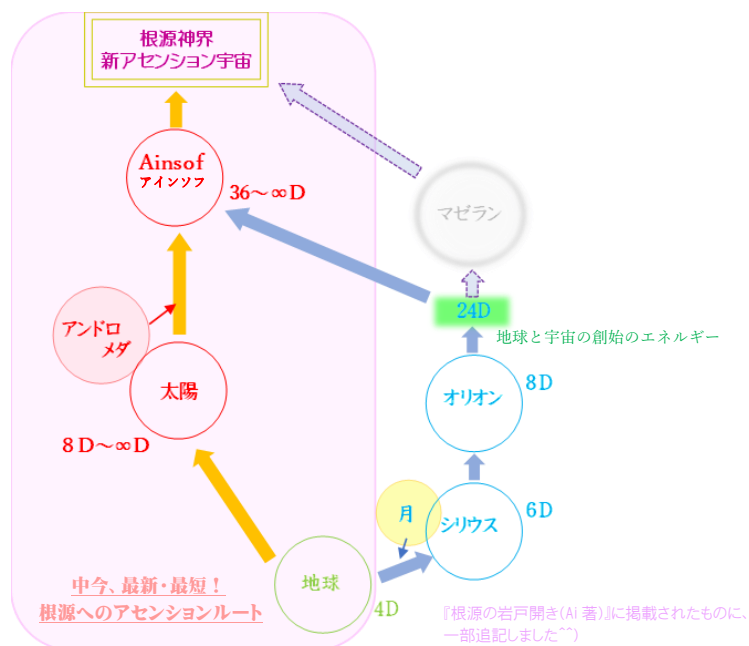
「どうしたら、一切衆生を救うことが出来るか——」と考えている弥勒菩薩像は、

聖徳太子の御心(キリスト意識)そのものでした。^^

ローソクの微かなあかりしか灯されていない、暗い霊宝殿の中は、まるで宇宙空間のようでもあり、
巨大な仏様の前に立つ地上セルフは、身体がみるみる縮んでいく感じがしました。

そこは、仏界の故郷といわれる“マゼラン銀河”だったのかも…？

私達の住む天の川銀河の、母が“アンドロメダ銀河、父が“マゼラン銀河”であると言われます。



アンドロメダ銀河と天の川銀河は、現代の科学においても、将来一つに統合されると言われ、

まさに、女性性が中心となった新時代における、根源への帰還の道のり

=アセンション・ルート(ピンクの枠内)となっているのだと思います。

一方、根源から地球へと下りてきた道=ディセンション・ルートとなったのがマゼランです。

地球と宇宙の創始の次元とされる24Dを越えた先にあり、根源とつながる高波動の銀河で、

“金鷄”(八咫鳥のトップ)と呼ばれる、男性性のルートであるとされます。

八咫鳥は、初代“神武天皇”の御庭番であり、中興の祖と言われるのが、聖徳太子でもあります。

今は消失したとされるマゼラン銀河は、“仏界の故郷”であり、

宇宙連合のマル秘のミッションを持っているとされる事から、地上セルフの勝手な想像ですが、

“弥勒菩薩”はマゼラン銀河にあり、ずっと私達の事を陰から見守ってくれていたのではないのでしょうか？

(3分経ったら帰らなければならない“ウルトラマン”?!は、弥勒菩薩に似ている気がしませんか?^^)

人が本来の姿へと帰り、高い波動(意識)を取り戻すことによって、

再びマゼランとのつながりを思い出し、自身が“弥勒”そのものであった事に気付く時、マゼラン銀河は、人類救済のミッションを終え、地球と共に根源へと帰っていくのでは？と。^^

2011年にアカデミーに参加してから、2015年までの出来事を、振り返ってみましたが、これ以外にも、沢山の出来事、学びがありました。^^

自身が学んだ事を、他の多くの方にもお伝えしたい、との思いから立ち上げたのが、“北陸アセンションプロジェクト”（『根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN』の前身）で、地上セルフには、自己の体験をシェアする、という以外の気持ちはありませんでした。けれど、宇宙のあらゆる全てはエネルギーであり、レポート（体験記）も単なる文字の連なりではなく、“生きたエネルギー場”となっていた事が、振り返ってみてはじめて理解できました。

エネルギーには共鳴・拡大の法則があり、中心となる“テン”が生まれれば、そこから∞の“マル”が形成されていくのだと思います。

（マルテンの形象＝神界の創造のパワーであり、宇宙そのものでもあります。）

ゆえに、**すべての動機、“テン”は必ず“愛”でなければならない！！**と、私は強く思います。

地上セルフはまだまだ未熟で、いろいろやらかします。（笑）

それを常にサポートしてくれているのが、一人一人のハイアーセルフであり、愛と光のマスター方で**宇宙とは、“永遠の愛の学び舎”**であることに、感謝と喜びで一杯です！^^

寝ても覚めても、根源の太陽を思い、白山を思い、新Gを思う…、そんな日々の中で、気付いたら出来ていたのが、『**根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN**』です！^^
『**根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN**』というエネルギー場が、本格的に動き出す？！

と感じたのが、2017年の1月です。

「**大風呂敷を広げる！！**」という、天からのメッセージが降ってきました？！

（正確には、そのように感じました、です。）

大風呂敷とは何だろう…？

まだ、何の準備も出来ていない気がして躊躇していると、

「降りる所がないと、降りられないのだ…」との、高次の焦り？のようなものが伝わってきて、この際、空き地でもなんでもいいから（笑）、とにかく降りる場所を用意しなければ——、ということで、

ブログにて明確な、“**根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN 始動宣言！**”をしました。

そして毎回、これ以上自身の中からは何もでてこない…と思いながら、今日まで続いています。^^

(私の中には、∞の宇宙がある?!)



『 HAKU (hamu) SUN 』とは？

HAKU = 白、hamu = ハム(赤、根源太陽の子供)、SUN = サン、山であり太陽の意で、新しい白山神界(ハム山)と、根源天照神界のコラボによる“根源への帰還プロジェクト”です。

中今、新しい宇宙(NMC)と地球の創生！という、

超大スペクトル・アセンションプロジェクト！！でもあり、全く未知の可能性と言われます。

私達は今という特別な時期に、それぞれが、宇宙史における準備を重ねて、

NMCの雛形である(NMCの核神 = 根源天照皇太神が存在する)、地球に生まれてきました！

これ以上のワクワク(真の自己 = 魂の喜び)があるでしょうか？^^

『根源 AP・HAKU (hamu) SUN』(= 根源アセンションプロジェクト・HAKU (hamu) SUN)の

トップにくるのが、《根源へのアセンションとは？》と題した

自身が感じる“**根源天照皇太神**”のエネルギーを、表現したコーナーで、

宇宙の創始に旅立った愛の故郷(根源母神)への思いであり、私の生きる目的でもあります！^^

今生一人一人が抱いて生まれて来たミッションは、様々だと思いますが

全てが一なる源、根源の母神から生まれ、たくさんのお土産を携えて、再びそこへと帰る！

という目的は同じであり、「**愛にはじまり、愛に終わる——**」です。^^

この至上の喜び＝根源の愛のエネルギーを、少しでも伝える事が出来たなら、とても嬉しく思います。

次に、自身特有のミッションと感じる、

『根源 AP・HAKU (hamu) SUN』 へと入っていきます。

自身は白山の麓で生まれた事から、白山(神)に関心を持ち、自分なりに探求し、理解してきたことや、その時々々の決意、宣誓等を、コンテンツや画像にし、発進しています。ネットを開けば分からない事はない時代なので、単なる情報であるとか、正解・不正解というのではなく、自分が感じたままを、中今(過去と未来が同時にある今ここ)で表現しています。^^ 人の評価は、一切気にならなくなりました(笑) 自分が信じた道を、ただ真つすぐに進みたいだけです。

『根源 AP・HAKU (hamu) SUN』には、下記のコーナーがあります。

○白山神界(ハム山神界)のコーナー

○NMC コーナー (旧ユニバースのコーナー)

○地上の新 G コーナー (はじめりは、白山神界のコーナーにあります)

○思い出の写真のコーナー (圧縮ファイルの保存箱？エネルギー再生装置？でしょうか)

○イメージワーク(画像)のコーナー (漠然と感じたエネルギーを、システム化している感じでもあります)

○中今のハム山コーナー (自身にとってのアセンションの一步、はじめりの記録です)

(と書くと、なんだか計画性がある？みたいですが、なんとなく出来てました。笑)

「新しい、ありがたき故郷白山」と題した、白山の写真から入るコーナーの中には、

《白山比咩神社のコーナー》と、《新 G のコーナー》とがあります。

“白山さん”はいつでも訪れることが出来る、実際の神社なので、まだなんとかなりそう？(笑)ですが、

新 G は謎の天界であり、地上セルフにはどうしたらいいのか？全くわかりませんでした。

ただなんとなく、白山神界と深い関りを持つ宇宙の特務機関？でもある気がして、探求を続け、

後に、《地上の新 G コーナー》として浮上しました！

潜在意識の奥深くにしまわれていたものが、顕在意識に上ってきた、という感じでしょうか？^^

—— 後編へつづく^^ ——